

令和 2 (2020)年度

シラバス

- 1 年次 -

科目No	BCS01-1R		授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	心理学		担当教員	松尾 加代		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	人文科学系	必修	2単位	前期(30h)	
	作業療法学					
言語聴覚学						
教員の実務経験と授業内容の関連						
授業内容の要約	心理学の分野で研究されている各領域を概観する。心理学的なものの考え方、捉え方を学び、日常生活場で生じる人間の行動の基本的なメカニズムを理解する。それらを通して、自己理解・他者理解を深めることを目指す。					
学修目標 到達目標	1. 心理学の基礎的な知識を習得し、理解・説明することができる 2. 日常生活場面で遭遇するさまざまな事象について、心理学の観点から解釈することができる 3. 心理学の知識を応用し、自己理解・他者理解を深める					
授業形態 授業の進め方	講義形式で行う。配布資料は重要個所が空欄になっているので、学習者がその空欄を埋めることで資料を完成させる。毎講義後に、コミュニケーションペーパーを配布し、質問や意見の提出を求める。質問の回答および補足説明は、次の講義の最初に行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. イントロダクション：心理学とは			授業内容の復習			
2. 心理学研究法			〃			
3. 知覚：色、形、大きさ、動きの知覚			〃			
4. 注意：選択的注意			〃			
5. 記憶①：記憶の仕組み、感覚記憶～長期記憶			〃			
6. 記憶②：長期記憶			〃			
7. 思考：推論、判断、意思決定			〃			
8. 学習心理学①：古典的条件づけ、オペラント条件づけ			〃			
9. 学習心理学②：社会的学習、動機づけ			〃			
10. 社会心理学：集団、対人、社会的認知			〃			
11. 発達心理学：認知発達理論、言語と思考の発達			〃			
12. 人格心理学：理論、測定法			〃			
13. 異常心理学：精神障害			〃			
14. 臨床心理学：心理療法			〃			
定期試験						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 30%	□レポート %	■定期試験 70%	□その他 %	
	基準等	授業内課題を呈示する。		定期試験を実施する。授業の内容全般についての理解度を評価する。		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	特に指定しない					
参考文献						
履修要件等	特になし					
研究室	1号館4階 第4研究室		オフィスアワー			

科目No.	BCS02-1R		授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	日本語表現 I		担当教員	田中 健 山崎 澄子	磯田 恵子	
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	人文科学系	必修	1単位	前期(16h)	
	作業療法学					
言語聴覚学						
教員の実務経験と 授業内容の関連						
授業内容の要約	教科書を用いて、文章表現のための基礎的な知識とよりわかりやすい文章を書くための方法を学ぶとともに、実際の場面を想定した日本語の表現方法を学習する。効率よい授業展開のために予習復習範囲を明確にし、提示する。					
学修目標 到達目標	1. 文章表現のための基礎的知識を身につける。 2. より正確で、わかりやすい文章を書く方法を知る。 3. 目的に沿った方法で、実際の日本語表現(話す・書く)ができるようになる。					
授業形態 授業の進め方	少人数クラスを編成し、一人ひとりが授業内容をしっかり把握できるようにする。 教科書に即しながら、それを応用して実際の文章作成ができるよう心がける。 提示された予習・復習・課題等をおろそかにせず、能動的に学習を進める。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30分以上
1. オリエンテーション + アカデミックワードと日常語(p1-2)				復習 P3-4 予習 p5-8		
2. 仮名遣い・送り仮名(p5-8)		要約文の書き方1		要約文①		
3. 句読点(p9-12)		要約文の書き方2		予習 p13-16 要約文②		
4. 四字熟語・ことわざ・慣用句(p13-16)		漢字の使い分け (p17-20)		予習 p21-26		
5. 見やすい表記(p21-22) 敬語(p23-26)		メモの取り方		予習 p-27-30		
6. 手紙 (p27-30)		聞き取り要約文1		聞き取り要約文①		
7. Eメール(p31-34)		聞き取り要約文2		聞き取り要約文②		
定期試験 (期末レポート)						
8. 総括及びフィードバック (定期試験の解答・解説)						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 20%		□レポート %		■定期試験 70%
	基準等	自宅課題の取り組み状況を評価する		授業内容全般についての理解度を評価する		■その他 10%
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	安部朋世・福嶋健伸 橋本 修	「大学生のための日本語表現 トレーニング」ドリル編		三省堂		2010
参考文献						
履修要件等						
研究室	3号館2階 日本語力向上プロジェクト室		オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。		

科目No.	BCS03-1R		授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	日本語表現Ⅱ		担当教員	田中 健 山崎 澄子	磯田 恵子	
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	人文科学系	必修	1単位	後期(16h)	
	作業療法学					
言語聴覚学						
教員の実務経験と 授業内容の関連						
授業内容の要約	教科書を用いて、文章表現のための基礎的な知識とよりわかりやすい文章を書くための方法を学ぶとともに、実際の場面を想定した日本語の表現方法を学習する。効率よい授業展開のために予習復習範囲を明確にし、提示する。					
学修目標 到達目標	1. 文章表現のための基礎的知識を身につける。 2. より正確で、わかりやすい文章を書く方法を知る。 3. 目的に沿った方法で、実際の日本語表現(話す・書く)ができるようになる。					
授業形態 授業の進め方	少人数クラスを編成し、一人ひとりが授業内容をしっかり把握できるようにする。 教科書に即しながら、それを応用して実際の文章作成ができるよう心がける。 提示された予習・復習・課題等をおろそかにせず、能動的に学習を進める。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30分以上
1. あいまいな文・わかりやすい語順(p35-36・p37-38)				復習 p36,38		
2. 長い文を分ける (p39-42) 説明文の書き方				復習 P41-42		説明文①
3. 文のねじれ (p43-44)・接続表現の使い方(p45-48)				復習 P47-48		
4. 結論を先に述べる(p49-50) (課題文付き) 意見文の書き方				(課題文付き) 意見文		
5. 事実か意見か(p51-54) (タイトル提示型) 小論文の書き方				(タイトル提示型) 小論文①		
6. データの解釈ほか(p55-64)				小論文②		
7. レポートの構成ほか(p65-76)				復習 p55-76		
定期試験 (期末レポート)						
8. 総括及びフィードバック (定期試験の解答・解説)						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 20%	□レポート %	■定期試験 70%	■その他 10%	
	基準等	自宅課題の取り組み状況を評価する		授業内容全般についての理解度を評価する		授業中の取り組み状況を評価する
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	安部朋世・福嶋健伸 橋本 修	「大学生のための日本語表現 トレーニング」ドリル編		三省堂	2010	
参考文献						
履修要件等						
研究室	3号館2階 日本語力向上プロジェクト室		オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。		

科目No.	BSS01-1E		授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	社会学		担当教員	野村 和樹		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	社会科学系	選択必修	1単位	後期(16h)	
	作業療法学					
言語聴覚学						
教員の実務経験と授業内容の関連						
授業内容の要約	「社会学とはどのような学問であるのか」という問いに答えを見つけられるように講義を進める。社会学の視点や方法論を理解するために古典的学説やいくつかの社会現象へのアプローチを紹介する。事例を用いて社会的アプローチを実際に試みる。					
学修目標 到達目標	1. 社会学の成り立ちから様々な学説が生まれた過程を理解することができる 2. 人間の行動と環境との関係を社会的な視点で見ることができる 3. 日常的な社会現象を社会的な問題として捉えることができる					
授業形態 授業の進め方	基本的には、講義形式で授業を進める。教科書は用いずレジュメを配布し授業を進めるので、A4版のファイルを用意すること。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 社会学の歴史と展開 (社会学の命名から社会学への歩み)			社会学の命名に至る過程から実証科学であることをまとめること			
2. 実証科学としての「社会学」 黎明期における主要な人々とその思想 I (デュルケームの社会学)			デュルケームの学説をまとめること			
3. 実証科学としての「社会学」 黎明期における主要な人々とその思想 I (デュルケームの社会学II)			『自殺論』の要点を整理すること			
4. 実証科学としての「社会学」 黎明期における主要な人々とその思想 II (ウェーバーの社会学I)			ウェーバーの学説をまとめること			
5. 実証科学としての「社会学」 黎明期における主要な人々とその思想 II (ウェーバーの社会学II)			『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』の要点を整理すること			
6. 都市を知る I (シカゴにおける社会学の展開)			『ヨーロッパとアメリカにおけるポーランド農民』の要点を整理すること			
7. 逸脱をうむ社会環境			『ジャック・ローラー』の要点を整理し、少年非行の要因をまとめること			
定期試験 (期末レポート)						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 20%	□レポート %	■定期試験 70%	■その他 10%	
	基準等	単元終了時に講義内確認テストを実施		全般に渡る範囲から理解度をはかる	要点を整理したプリントを作成	

	著者	タイトル	出版社	発行年
教科書	各項目に応じてレジュメを配布する			
参考文献	適宜紹介する			
履修要件等				
研究室	1号館4階 第1研究室	オフィスアワー	毎週水曜日 12:00~13:00	

科目No.	BSS02-1E		授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	社会福祉学		担当教員	野村 和樹		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	社会科学系	選択必修	1単位	前期(30h)	
	作業療法学					
	言語聴覚学					必修
教員の実務経験と授業内容の関連						
授業内容の要約	<p>学生が自ら“他者を支援すること”を学びとれるよう、人間の尊厳や権利について、考え理解できるように児童福祉の領域を主として試みる。また、人間の尊厳が現代社会においていかに尊重されているのかを、福祉の制度施策に照らし合わせて考える。その上で、社会福祉における価値観や倫理、人権意識、思想、歴史などを体系的に学び理解する。</p>					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の尊厳と権利について理解できる 2. 社会福祉に関わる制度施策が理解できる 3. 各種の福祉サービスを理解し社会資源として活用できる 					
授業形態 授業の進め方	<p>講義形式で授業を進める。教科書は用いずレジュメを配布し授業を進めるので、A4版のファイルを用意すること。新しく学ぶ用語があるので、自ら用語集を作成できるようにノートを用意されることを勧める。</p>					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上	
1. 社会福祉とは				復習：自らの社会福祉観をまとめること		
2. 児童に見る権利の変遷と社会の歴史Ⅰ 社会の負担としての児童から労働力としての児童				復習：児童の地位の移り変わりをまとめること		
3. 児童に見る権利の変遷と社会の歴史Ⅱ 次代の国身としての児童から権利の主体としての児童				復習：「権利の主体」について考えをまとめること		
4. 社会的養護のおこりⅠ 明治時代にはじまる社会的養護				復習：明治時代にはじまる社会的養護のあり方を整理すること		
5. 社会的養護のおこりⅡ 感化事業の創設と展開				復習：明治期における先覚者の事業と意義をまとめること		
6. 児童領域における社会福祉とは				復習：児童福祉法を理解し整理すること		
7. 児童に関わる社会福祉の制度・施策				復習：児童福祉に関わる法律をまとめること		
8. 今日の児童に関わる問題 児童虐待、子どもの貧困問題				復習：児童虐待についてまとめること		
9. ライフサイクルと社会福祉				復習：ライフサイクルと福祉の関係をまとめること		
10. 障がい者の福祉とは				復習：日本における障がい者福祉の歴史をまとめること		
11. 障がい者福祉に関わる法制度 (身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神保健福祉法等)				復習：身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神保健福祉法についてまとめること		
12. 障がい者福祉における制度・施策 (障害者基本法、障害者総合支援法、障害者差別解消法等)				復習：障害者総合支援法による支援についてまとめること		
13. 高齢期の社会福祉とは				復習：高齢者福祉の変遷についてまとめること		
14. 介護保険制度				復習：介護保険制度を理解し、整理すること		
定期試験(期末レポート)						

15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）					
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 20%	□レポート %	■定期試験 70%	■その他 10%
	基準等	講義内で確認テストを実施		全般に渡る範囲から理解度をはかる	要点を整理したプリントを作成
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	各項目に応じてレジュメを配布する				
参考文献	適宜紹介する				
履修要件等	社会保障制度、社会福祉援助論、障害者福祉論も併せて受講されることが望ましい				
研究室	1号館4階 第1研究室		オフィスアワー	毎週月曜日 12:00~13:00	

科目No.	BNS01-1R		授業形態	実習	開講年次	1年次
授業科目名	情報処理学入門		担当教員	野村 和樹		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	自然科学系	必修	1単位	前期(30h)	
	作業療法学					
	言語聴覚学					
教員の実務経験と授業内容の関連						
授業内容の要約	通常授業の課題作成のレベルから、実習のまとめ、卒業論文作成のレベルに至るまで、大学生生活のあちらこちらで必要となってくる、メーラー、ブラウザ、ワープロ・ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーション・ソフトの基本的な仕組みと操作を身につけることを目的とする。					
学修目標 到達目標	1. 学内のネット環境を活用できる 2. 基本的なソフトを使うことができる 3. 学修・研究活動における基本的な関数を使うことができる					
授業形態 授業の進め方	実際にパソコン操作をしながら、授業を行う。教科書は特に指定せず、資料は授業内で配布する。第1回目、第2回目の授業には携帯電話を持って来ること。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. CALL 教室の使用方法、学内メールの設定、タッチ・タイピング練習			タッチ・タイピングの課題を送付すること			
2. メール の 書き方①			メール作成し送信すること			
3. メール の 書き方②			メール作成し送信すること			
4. ワープロ・ソフトの使い方①			課題を作成し、添付ファイルで送信すること			
5. ワープロ・ソフトの使い方②			課題を作成し、添付ファイルで送信すること			
6. ワープロ・ソフトの使い方③			課題を作成し、添付ファイルで送信すること			
7. 文献検索			検索した文献を添付ファイルで送信すること			
8. 表計算ソフトの使い方①			課題を作成し、添付ファイルで送信すること			
9. 表計算ソフトの使い方②			課題を作成し、添付ファイルで送信すること			
10. 表計算ソフトの使い方③			課題を作成し、添付ファイルで送信すること			
11. ブラウザ + 表計算ソフトの使い方			課題を作成し、添付ファイルで送信すること			
12. プレゼンテーション・ソフトの基本①			課題を作成し、添付ファイルで送信すること			
13. プレゼンテーション・ソフトの基本②			課題を作成し、添付ファイルで送信すること			
14. プレゼンテーション・ソフトの基本③			課題を作成し、添付ファイルで送信すること			
15. 総括及びフィードバック (定期試験の解答・解説)			課題を作成し、添付ファイルで送信すること			
成績評価方法	項目	■課題 70%	□レポート %	□定期試験 %	■その他 30%	
	基準等	毎回課せる課題を評価する		プレゼンテーション		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	特になし					
参考文献	特になし					

履修要件等	特になし		
研究室	1号館4階 第1研究室	オフィスアワー	毎週月曜日 12:00~13:00

科目No.	BNS02-1R		授業形態	実習	開講年次	1年次	
授業科目名	情報処理学応用		担当教員	濱 裕光			
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間	
	理学療法学	自然科学系	必修	1単位	後期(30h)		
	作業療法学						
	言語聴覚学						
教員の実務経験と授業内容の関連							
授業内容の要約	<p>パーソナル・コンピュータ(PC)は、データの収集、蓄積、加工、分析に必要な不可欠なアイテムのひとつである。本講義では、代表的な表計算ソフトウェアである Excel の操作方法を学び、統計の基本的な処理ができるようになる。特に、統計は身近なもので、その使い方を覚えれば、便利な知的道具であることを理解できるようになる。</p>						
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 代表的な表計算ソフトウェアである Excel の操作方法を身につける 2. 基本的な統計処理ができる 3. 数値の羅列からは見えなかった本質の「見える化」のための道具の存在に気付く 						
授業形態 授業の進め方	<p>実技形式にて、表計算ソフト Excel を操作しながら、統計処理の基本の習得を目指す。毎回配布するプリントとエクセルファイルに沿って実際に入力することで理解を深める。エクセルの高機能、便利さに感動し、エクセルを使う楽しさ、便利さを体感して欲しい。</p>						
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上		
1. エクセル基本操作、画面の各部の名称と役割(教科書 pp1~20)			復習: 授業内容を復習し、理解を深める				
2. エクセル入門①、装飾と表示形式(教科書 pp21~33)			復習: 授業内容を復習し、理解を深める				
3. エクセル入門②、「家計簿」で学ぶ表計算の基礎(教科書 pp34~41)			復習: 授業内容を復習し、理解を深める				
4. エクセル入門③、データの活用、印刷テクニック(教科書 pp42~62)			復習: 授業内容を復習し、理解を深める				
5. エクセル入門④、「請求書」で学ぶ関数(教科書 pp63~73)			復習: 授業内容を復習し、理解を深める				
6. エクセル入門⑤、テーブルとして書式設定(教科書 pp46~57)			復習: 授業内容を復習し、理解を深める				
7. エクセル入門⑥、日付・時間関数、論理関数(教科書 pp74~76)			復習: 授業内容を復習し、理解を深める				
8. エクセル入門⑦、基本的なグラフ・複合グラフ(教科書 pp86~91)			復習: 授業内容を復習し、理解を深める				
9. エクセル入門⑧、視点を変えてデータを眺めよう(ピボットテーブル)			復習: 授業内容を復習し、理解を深める				
10. 中間試験			復習: 模試問題を解いて、理解を深める				
11. 統計処理①、基礎統計量、時系列は滑らかに(参考書 ^(*) 第5、6章)			復習: 授業内容を復習し、理解を深める				
12. 統計処理②、相関係数で2人の相性を(参考書 ^(*) 第7章)			復習: 授業内容を復習し、理解を深める				
13. 統計処理③、消防署からの距離と火災時の損害額(参考書 ^(*) 第8章)			復習: 授業内容を復習し、理解を深める				
14. 統計処理④、ウェイトレスの平均時給の区間推定(参考書 ^(*) 第9章)			復習: 授業内容を復習し、理解を深める				
定期試験			復習: 模試問題を解いて、理解を深める				
15. 総括及びフィードバック(ポイント解説とまとめ)			復習: 授業内容を復習し、理解を深める				
成績評価方法	項目	<input type="checkbox"/> 課題・小テスト	%	<input type="checkbox"/> レポート	%	<input type="checkbox"/> 定期試験 80%	<input type="checkbox"/> その他 20%
	基準等					エクセルと統計処理に分けて、中間試験と後期試験を実施し、理解度の確認を行う。	出席および授業態度などの総合評価
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年		
	金矢八十男 ほか	「500円でわかるエクセル2016 (コンピュータムック500円シリーズ)」		学研パブリッシング	2016		
参考文献	室淳子、石村貞夫	「Excelでやさしく学ぶ統計解析」 ^(*)		東京出版	2004		
	山田覚	「医療・看護のためのやさしい統計学 基礎編」		東京図書	2005		
履修要件等							
研究室	1号館1階 非常勤講師研究室		オフィスアワー	授業終了後			

科目No.	BSS03-1R		授業形態	講義	開講年次	1年次	
授業科目名	コミュニケーション学		担当教員	中村 俊介			
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間	
	理学療法学	社会科学系	必修	1単位	後期(30h)		
	作業療法学						
言語聴覚学							
教員の実務経験と授業内容の関連	北摂地域青少年教育活動や中学校・高等学校における学校開き研修などの勤務経験のある教員がその経験を生かして、人間関係トレーニングを中心とした講義を行う。						
授業内容の要約	医療現場のみならず、社会生活においてより良い人間関係の構築は必要不可欠なものである。本講義では、コミュニケーションの基本的理論について実例を通して学び、自分のコミュニケーション・パターンに気づき、スムーズなコミュニケーションの方法を理解、身につけることを目的とする。						
学修目標 到達目標	1. コミュニケーションの基本的理論を理解する 2. コミュニケーションに必要な能力を修得する 3. 対人サポートに必要なコミュニケーションの方法を知る						
授業形態 授業の進め方	グループワークを中心としたアクティブラーニングを実施し、活動の中で発生するコミュニケーション上の問題や心理状態等についての解説を行う。筆記用具・バインダーを持参する。						
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上		
1. オリエンテーション、対人援助職としてのPT/OT/ST			予習：p2-20 を読んでくる				
2. 自分と他者の違い：自己概念			予習：p21-40 を読んでくる				
3. コミュニケーションのプロセス			予習：配布資料を読んでくる				
4. ミス・コミュニケーションの成り立ち			予習：配布資料を読んでくる				
5. Verbal Communication と Non-Verbal Communication			予習：p41-46 を読んでくる				
6. 自分のコミュニケーション・パターン			予習：p46-50 を読んでくる				
7. 医療面接①：「臨床実習ロールプレイ」			予習：p50-60 を読んでくる				
8. 医療面接②：「臨床実習ロールプレイ」			予習：p60-68 を読んでくる				
9. Priority、Consensus 実習①：「NASA」			予習：p69-82 を読んでくる				
10. Priority、Consensus 実習②：			予習：p83-92 を読んでくる				
11. 集団の中での自分①：BS法、KJ法			予習：p104-119 を読んでくる				
12. 集団の中での自分②：自分の課題の探り方			予習：p120-133 を読んでくる				
13. 集団の中での自分③：話せない時の自分			予習：p134-147				
14. 医療現場でのコミュニケーション			予習：p147-170 を読んでくる				
定期試験							
15. 総括及びフィードバック（定期試験の解説）			予習：p170-182 を読んでくる				
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	□レポート	%	■定期試験 100%	□その他 %
	基準等					授業の内容全般についての理解度を評価する。	
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年	
	山口 美和	PT・OT のためのコミュニケーション実践ガイド 第2版			医学書院	2016	
参考文献	津村俊充、他	人間関係トレーニング 第2版			ナカニシヤ出版	2010	
履修要件等	・他者と関わるのが苦手な学生は自分と向き合い、課題を明確に出来るかもしれません。						
研究室	3号館2階 第26研究室		オフィスアワー	毎週水曜日 16:20~17:30			

科目No.	BNS04-1R		授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	生物学		担当教員	中村 美砂		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	自然科学系	必修	1単位	前期(16h)	
	作業療法学					
	言語聴覚学					
教員の実務経験と授業内容の関連						
授業内容の要約	「ヒト」に焦点をあてた生命科学を内容とし、人の生命維持機構のもつ法則性・論理性について理解する					
学修目標 到達目標	1. 体の構成単位である細胞の構造と機能について説明できる 2. 体の中の物質代謝や情報伝達のしくみが説明できる 3. 遺伝子の構造と機能が説明できる					
授業形態 授業の進め方	教科書と配布プリントに沿った講義を行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 体をつくる分子にはどのようなものがあるか (教科書 pp.29~37)			三大栄養素別に構成する分子をまとめること			
2. 細胞とはどのようなものか (教科書 pp.10~25)			生物の基本的な性質についてまとめること			
3. 細胞はどのように増えるか (教科書 pp.26~28)			2つの細胞分裂様式についてまとめること			
4. ヒトの体はどのようにできているか (教科書 pp.59~67) [小テスト]			各組織の構造と特徴についてまとめること			
5. 体の中で物質はどのように変化するか (教科書 pp.38~pp.45)			三大栄養素の代謝についてまとめること			
6. 遺伝子と遺伝はどのように関係しているか (教科書 pp.47~58)			メンデルの法則についてまとめること			
7. 遺伝子と体はどのように関係しているか (教科書 pp.47~58)			遺伝子からタンパク質が合成されるまでの過程をまとめること			
定期試験 (期末レポート)						
8. 総括及びフィードバック (定期試験の解答・解説)			試験で不正解だった領域をもう一度復習すること			
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 20%	□レポート %	■定期試験 80%	□その他 %	
	基準等	指定した講義の内容について小テスト(1回)を実施し、理解度を評価する。		全講義の内容についての理解度を評価する。		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	八杉貞雄	「ヒトを理解するための生物学」		裳華房	2013	
参考文献	小林直人ほか	「まるわかり!基礎生物」		南山堂	2014	
	巖佐庸 ほか	「生物学辞典 第5版」		岩波書店	2013	

履修要件等			
研究室	1号館5階 第10研究室	オフィスアワー	毎週月曜日 13:00~14:30

科目No.	BFL01-1R		授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	英文法		担当教員	パトリック・ポーレン		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	外国語系	必修	2単位	前期(30h)	
	作業療法学 言語聴覚学					
教員の実務経験と 授業内容の関連						
授業内容の要約	This course will clearly present the important aspects of English grammar, especially that of the “subject + verb,” which is the basis for English composition. This will help students in their future study of medical dissertations.					
学修目標 到達目標	1. The study of basic English grammar—“Subject + Verb” 2. Confirming the exchange of information in English 3. Reading and understanding of elementary texts, especially concerning the medical field					
授業形態 授業の進め方	講義, 演習					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. "Be" Verb, (教科書 pp 8-11)			準備として、宿題を完成させ、来週のクイズに向けて勉強します。			
2. Simple Present Tense (教科書 pp 12-15)			°			
3. Simple Past Tense (教科書 pp 16-19)			°			
4. Pronouns (教科書 pp 20-23)			°			
5. Prepositions (教科書 pp 24-27)			°			
6. Progressive Tenses (教科書 pp 28-31)			°			
7. Nouns and Articles (教科書 pp 32-35)			°			
8. Modals (教科書 pp 36-39)			°			
9. Suggestions and Commands (教科書 pp 40-43)			°			
10. Simple Future Tense (教科書 pp 44-47)			°			
11. Questions Words and Tag Questions (教科書 pp 48-51)			°			
12. Adjectives (教科書 pp 52-55)			°			
13. Comparatives (教科書 pp 56-59)			°			
14. Adverbs (教科書 pp 60-63)			°			
定期試験 (期末レポート)						
15. 総括及びフィードバック (定期試験の解答・解説)						
成績評価方法	項目	■課題 50%	□レポート %	□定期試験 %	■小テスト 50%	
	基準等	Homework will be assigned and checked weekly.				授業内の小テスト (14回)を実施し、授業の内容についての理解度を評価する。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	Bennett; Komiya	“Grammar Plus”		Nan'un-do	2013	
参考文献	None.					

履修要件等	Please come fully prepared to each class meeting.		
研究室	1号館1階 非常勤講師控室	オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。

科目No.	BFL02-1R		授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	英文講読		担当教員	松尾 加代		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	外国語系	必修	1単位	後期(16h)	
	作業療法学					
	言語聴覚学					
教員の実務経験と授業内容の関連						
授業内容の要約	聴くことと読むことで英文を理解する。英語に対する苦手意識を軽減し、英語によるコミュニケーションへの興味を促進することを目指す。					
学修目標 到達目標	1. 医学・医療関係の英単語が理解できる。 2. 医学・医療関係の英文が読解できる。 3. 医学・医療関係の英文を聴いて理解することができる。					
授業形態 授業の進め方	講義形式で授業をすすめる。指定の教科書を使用して、聴くことと読むことを通して英文の理解を深める。単語を調べ、日本語訳を行い、各ユニットの最後に理解度の確認のための問題を実施する。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. Unit 2 Nutrition and Fitness (pp. 10-11)			予習をしてこること、辞書を持ってくるこ			
2. Unit 2 Nutrition and Fitness (pp. 10-13)			ditto (同上)			
3. Unit 2 Nutrition and Fitness (pp. 12-13) Unit 4 Hygiene and Public Health (pp.18-19)			ditto (同上)			
4. Unit 4 Hygiene and Public Health (pp.18-21)			ditto (同上)			
5. Unit 4 Hygiene and Public Health (pp.20-21)			ditto (同上)			
6. Unit 15 Why is Team Medical Treatment Necessary? (pp.62-63)			ditto (同上)			
7. Unit 15 Why is Team Medical Treatment Necessary? (pp. 62-65)			ditto (同上)			
定期試験(期末レポート)						
8. 総括及びフィードバック(定期試験の解答・解説)						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 30%	□レポート %	■定期試験 70%	□その他 %	
	基準等	単語テスト		本文の英文和訳テスト		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	高津昌宏, 他	The Hospital Team		南雲堂	2010	
参考文献						
履修要件等						
研究室	1号館4階 第4研究室		オフィスアワー			

科目No.	BFL04-1E		授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	英会話 I		担当教員	パトリック・ポーレン		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	外国語系		選択必修	1単位	後期(16h)
	作業療法学					
言語聴覚学						
教員の実務経験と授業内容の関連						
授業内容の要約	This English conversation course will build student confidence and improve overall English speaking and listening proficiency through enjoyable in-class oral activities. Moreover, this course will provide the proper foundation for future English study.					
学修目標 到達目標	講義, 演習					
授業形態 授業の進め方	Students should come to every class and practice enthusiastically. They should also do each homework assignment neatly and completely.					
授業計画				授業時間外に必要な学修	60分以上	
1 Introductions, course explanation				準備として、宿題を完成させ、来週のクイズに向けて勉強します。		
2 Getting to know each other (教科書 pp 2-4)				°		
3 Greetings, questions about abilities (教科書 pp 5-10)				°		
4 Questions about personal information (教科書 pp 11-15)				°		
5 Questions about times and dates (教科書 pp 16-21)				°		
6 Understanding personal schedules (教科書 pp 22-26)				°		
7 Understanding map directions (教科書 pp 38-42)				°		
8 Review of Weeks 1-7				°		
定期試験 (期末レポート)						
8. Review of Weeks 1-7				°		
成績評価方法	項目	■課題 50%	□レポート %	□定期試験 %	■小テスト 50%	
	基準等	Homework will be assigned and checked weekly.		授業内の小テスト(14回)を実施し、授業の内容についての理解度を評価する。		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	Wilson and Barnard	"Fifty-fifty: A speaking and listening course, Book 1, Third Edition"		Pearson ELT	2007	
参考文献	None					
履修要件等	Please come fully prepared to each class meeting.					
研究室	1号館1階 非常勤講師控室		オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。		

科目No.	BFL05-1E		授業形態	講義	開講年次	1年次			
授業科目名	英会話Ⅱ		担当教員	パトリック・ポーレン					
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間			
	理学療法学	外国語系		選択必修	1単位	後期(16h)			
	作業療法学								
言語聴覚学									
教員の実務経験と授業内容の関連									
授業内容の要約	This English conversation course will introduce and prepare students for the English they will encounter dealing with foreign patients in the future.								
学修目標 到達目標	講義, 演習								
授業形態 授業の進め方	Students should come to every class and practice enthusiastically.								
授業計画			授業時間外に必要な学修		60分以上				
1. Introductions, course explanation; Discussing future needs analysis			準備として、宿題を完成させ、来週のクイズに向けて勉強します。						
2. Greeting and making small talk with a foreign patient			°						
3. Talking about parts of the body and symptoms			°						
4. Giving physical instructions; explaining procedures			°						
5. Discussing schedules			°						
6. Talking about future treatment			°						
定期試験(期末レポート)									
8. Review of Weeks 1-6			°						
成績評価方法	基	<input type="checkbox"/> 課題	%	<input type="checkbox"/> レポート	%	<input type="checkbox"/> 定期試験	%	■小テスト	100%
	著者						In-class evaluation based on skits written and performed by the students		
教科書			タイトル		出版社		発行年		
			None						
参考文献									
			Please come fully prepared to each class meeting.						
履修要件等									
研究室	1号館1階 非常勤講師控室								

科目No.	BHS01-1E, BHS01-1R		授業形態	実習	開講年次	1年次
授業科目名	スポーツ実技A		担当教員	中村 俊介		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	健康体育系	選択必修	1単位	前期(30h)	
	作業療法学					
	言語聴覚学					必修
教員の実務経験と授業内容の関連	高等学校での保健体育や社会体育専門学校での勤務経験のある教員がその経験を生かして、ニュースポーツを中心とした生涯スポーツについての講義を行う。					
授業内容の要約	ニュースポーツなどの実践を通じ、心身の変化や技能の向上を体験し、自分に適した活動を見つけ、生涯スポーツに向けて主体的に健康と体力を維持増進する能力を養う。					
学修目標 到達目標	1. 身体運動やスポーツの実践を通して、心身の変化や技能の向上の方法を理解する 2. 道具やルールの変更で、スポーツの喜びや面白さが変化することを理解する 3. 集団行動における自らの特性を知る					
授業形態 授業の進め方	実技形式にて実施する。運動の出来る服装、運動靴で参加する。 履修学生が極端に少ない・多い場合は、実施種目を若干変更する。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. オリエンテーション 受講方法、記念講堂の使用について等						
2. ニュースポーツ① ソフトバレーボール：パス回しが出来るようになる			予習：ソフトバレーボールの競技ルールを調べる			
3. ニュースポーツ② ソフトバレーボール：アタックが出来るようになる			予習：ソフトバレーボールの練習方法を調べる			
4. ニュースポーツ③ ソフトバレーボール：試合での動き方を習得する			予習：ソフトバレーボールの練習方法を考える			
5. 実技試験 ソフトバレーボールの正確なサーブ						
6. ニュースポーツ⑤ ペタンク：正規ルール・アジャタ：ジュニアA			予習：新体力テスト実施要項を調べる			
7. ニュースポーツ⑥ ペタンク：コート制限・アジャタ：ジュニアB			予習：体力・運動能力調査結果を調べる			
8. ニュースポーツ⑦ ペタンク：人数制限・アジャタ：一般			予習：ペタンク・アジャタの競技ルールを調べる			
9. 実技試験 ペタンクの得点、アジャタのタイムトライアル						
10. ニュースポーツ① アルティメット：様々な投げ方を習得する			予習：競技ルールを調べる			
11. ニュースポーツ② アルティメット：正確に投げられるようになる			予習：練習方法を調べる			
12. ニュースポーツ③ アルティメット：試合での動き方を習得する			予習：練習方法を考える			
13. ニュースポーツ④ アルティメット：得点方法を変える			予習：練習方法を考える			
14. 実技試験 アルティメットの正確なスロー						
授業内にて実技試験を行う						
15. 総括及びフィードバック（全講義の振り返り）						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	■定期試験 70%	■その他 30%	
	基準等	なし	なし	・第11～14回目の講義にて、ニュースポーツを創作し、指導する。ルール設定や指導状況の完成度を評価する。	・準備体操・主運動、備品準備・後片付け等の参加状況を評価する。	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	なし	なし		なし	なし	
参考文献	なし	なし		なし	なし	
履修要件等	運動制限、運動を禁止されている学生は、事前に学務係に連絡しておくこと。					
研究室	3号館2階 第26研究室		オフィスアワー	毎週水曜日 16:20～17:30		

科目No.	BHS03-1E		授業形態	実習	開講年次	1年次
授業科目名	スポーツ実技B		担当教員	中村 俊介		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	健康体育系	選択必修	1単位	後期(30h)	
	作業療法学					
	言語聴覚学					
教員の実務経験と授業内容の関連	高等学校での保健体育や社会体育専門学校での勤務経験のある教員がその経験を生かして、ニュースポーツを中心とした生涯スポーツについての講義を行う。					
授業内容の要約	ニュースポーツなどの実践を通じ、心身の変化や技能の向上を体験し、自分に適した活動を見つけ、生涯スポーツに向けて主体的に健康と体力を維持増進する能力を養う。					
学修目標 到達目標	1. 身体運動やスポーツの実践を通して、心身の変化や技能の向上の方法を理解する 2. 道具やルールの変更で、スポーツの喜びや面白さが変化することを理解する 3. 集団行動における自らの特性を知る					
授業形態 授業の進め方	実技形式にて実施する。運動の出来る服装、運動靴で参加する。 履修学生が極端に少ない・多い場合は、実施種目を若干変更する。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. ニュースポーツ① インディアカ：パス回しが出来るようになる			予習：インディアカの競技ルールを調べる			
2. ニュースポーツ② インディアカ：アタックが出来るようになる			予習：インディアカの練習方法を調べる			
3. ニュースポーツ③ インディアカ：試合での動き方を習得する			予習：インディアカの練習方法を考える			
4. ニュースポーツ④ インディアカ：得点方法を変える			予習：インディアカの練習方法を考える			
5. 実技試験 インディアカの正確なサーブ						
6. ニュースポーツ⑤ ドンドンパ、シャッフルボード：正規ルール			予習：競技ルールを調べる			
7. ニュースポーツ⑥ ドンドンパ、シャッフルボード：得点方法の変更			予習：練習方法を考える			
8. ニュースポーツ⑦ ドンドンパ、シャッフルボード：得点方法の変更			予習：練習方法を考える			
9. 実技試験 ドンドンパの回数、シャッフルボードの正確なスロー						
10. ニュースポーツ⑧ ユニホック：ボール回しが出来るようになる			予習：競技ルールを調べる			
11. ニュースポーツ⑨ ユニホック：シュートが出来るようになる			予習：練習方法を調べる			
12. ニュースポーツ⑩ ユニホック：試合での動き方を習得する			予習：練習方法を考える			
13. ニュースポーツ⑪ ユニホック：得点方法を変える			予習：練習方法を考える			
14. 実技試験 ユニホックのドリブルとシュートのタイムトライアル						
授業内にて実技試験を行う						
15. 総括及びフィードバック（全講義の振り返り）						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	□レポート %	■定期試験 60%	■その他 40%	
	基準等	なし	なし	・第5、9、14回目の講義にて、各種目における技能の到達度の評価を行う。	・準備体操・主運動、備品準備・後片付け等の参加状況を評価する。	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	なし	なし	なし	なし	なし	
参考文献	なし	なし	なし	なし	なし	
履修要件等	運動制限、運動を禁止されている学生は、事前に学務係に連絡しておくこと。					
研究室	3号館2階 第26研究室		オフィスアワー	毎週水曜日 16:20~17:30		

科目No.	BLA01-1R		授業形態	演習	開講年次	1年次
授業科目名	基礎ゼミ		担当教員	各担当教員		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	教養ゼミ	必修	1単位	前期(16h)	
	作業療法学					
言語聴覚学						
教員の実務経験と授業内容の関連						
授業内容の要約	関連施設3施設の見学を通して、施設の違いを理解し、将来療法士となるための自覚を養い、今後の学修意欲の向上を図る。					
学修目標 到達目標	1. 自分で取ったメモをもとにレポート作成ができる 2. 「事実の記述」と「考察」と「感想」の書き分けができる 3. 対話をとおして、学びを深めることができる 4. 情報活用能力(情報モラル、情報探索、情報整理等)を身につけることができる					
授業形態 授業の進め方	少人数形式で、担当教員の指導のもと、アクティブ・ラーニング(施設見学、グループワーク、ディスカッションなど)を中心とした授業を行う。					
授業計画(8コマ)			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 関連施設見学の概略説明、手引きの説明、顔合わせ(全体)			関連施設見学の手引きを熟読すること			
2. レポート課題の説明、メモの取り方、見学の身だしなみについて(全体)			メモの取り方を各授業で練習すること			
3. 関連施設の事前情報収集(各ゼミ単位)			関連施設の情報収集をすること			
4. 関連施設見学(1)			レポート(1)の作成			
5. レポート(1)のフィードバックと関連施設見学(2)			レポート(2)の作成			
6. レポート(2)のフィードバックと関連施設見学(3)			レポート(3)の作成			
7. レポート(3)のフィードバックと各ゼミのプログラム			復習			
8. 各ゼミのプログラム			復習			
定期試験(期末レポート)						
成績評価方法	項目	<input type="checkbox"/> 課題・小テスト %	<input checked="" type="checkbox"/> レポート 50%	<input checked="" type="checkbox"/> 見学態度 30%	<input checked="" type="checkbox"/> その他 20%	
	基準等		関連施設見学のレポートにおける「事実の記述」「考察」「感想」の書き分けの達成度で評価する。	関連施設3施設の見学する態度を評価する。	基礎ゼミへの参加度及び授業態度を評価する。	
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	特に指定しない					
参考文献			関連施設見学の手引き	大阪河崎リハビリテーション大学		2020
履修要件等						
研究室	各担当教員研究室		オフィスアワー	各担当教員 オフィスアワー		

科目No.	FBM01-1R		授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	形態・機能学解剖領域 I		担当教員	後藤 隆洋		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	基礎医学、人体の構造と機能及び身体の発達	必修	2単位	前期 (30h)	
	作業療法学					
教員の実務経験と授業内容の関連						
授業内容の要約	ヒトのからだを植物性機能と動物性機能に分けて、前期の本科目では、植物性機能を有する各器官が身体のどこに配置され、どのような形態・構造・仕組みであるかを正常系統的に学ぶ。さらに、構造の持つ機能を理解することが構造の理解に必須なので、機能学的側面からも考察を進め「人体」を総合的に理解してゆく。解剖学に親しむことにより、自分の体の構造と働きにも興味を持ちながら解剖学・医学用語に慣れ、臨床系の授業が理解しやすくなる。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 体腔という概念を理解し、そこに収まる器官の配置と関連性を理解することができる 2. 消化・吸収機能を持つ器官の形態と構造について、正確に理解することができる 3. 呼吸と発声メカニズムについての器官の形態と構造について、正確に理解することができる 4. 心臓を中心とした血液循環器系およびリンパ系について、正確に理解することができる 5. 泌尿器系での尿生成器官、生殖器系での精子形成について、正確に理解することができる 					
授業形態 授業の進め方	講義。板書に加えて図の豊富な配布資料やスライドなど教育機器を適切に利用し解説する。毎回のミニテストの実施とフィードバックで理解不足な項目が明確になる。アクティブラーニング手法を取り入れ、前もって調べてきたことや授業で学んだことに対して教員と学生間及び学生間同士での意見交流を頻繁に行う。また、板書は多色の図が多いので色鉛筆を用意すること。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 解剖学とは (形態と機能) - 基礎医学における解剖学の位置、解剖学の種類、解剖学用語、人体の区分・腔所 pp.5-8			高校での生物学の基礎知識および漢字・英語能力			
2. 人体の構成 - 細胞、細胞小器官、細胞分裂・染色体、組織、器官、系統 (器官系) pp.9-20			前回の講義内容の復習とミニテスト対策			
3. 人体の発生 - 胚子の発生、外・内・中胚葉の形成、器官系の発生、鰓弓 (咽頭弓) の発生と大血管形成 pp.21-36			前回の講義内容の復習とミニテスト対策			
4. 消化器系 I - 内臓器官の基本構造 pp.333-334、口腔、舌、歯、唾液腺、咽頭、食道 pp.370-373			前回の講義内容の復習とミニテスト対策			
5. 消化器系 II - 胃、小腸 (十二指腸、空腸、回腸)、大腸 (盲腸、結腸、直腸)、消化・吸収のしくみ pp.373-378			前回の講義内容の復習とミニテスト対策			
6. 消化器系 III - 肝臓 (構造と機能)、胆嚢、膵臓 (外分泌部と内分泌部)、腹膜、嚥下のしくみ pp.378-383			前回の講義内容の復習とミニテスト対策			
7. 呼吸器系 I - 鼻腔、副鼻腔、咽頭、喉頭軟骨・筋、気管・気管支、発声のしくみ p.360-366			前回の講義内容の復習とミニテスト対策			
8. 呼吸器系 II - 肺、肺区域、肺泡、胸膜・縦隔、呼吸のメカニズム pp.366-369			前回の講義内容の復習とミニテスト対策			
9. 循環器系 I - 血管 (動脈・静脈・毛細血管)、体循環・肺循環、心臓の構造と栄養血管、刺激伝導系 pp.335-341			前回の講義内容の復習とミニテスト対策			
10. 循環器系 II - 動脈系 (大動脈と主な動脈及びその枝) pp.341-350			前回の講義内容の復習とミニテスト対策			
11. 循環器系 III - 静脈系 (伴行静脈、皮静脈、硬膜静脈洞、門脈と側副循環路、奇静脈)、胎児循環、リンパ管、リンパ性器官 pp.350-359			前回の講義内容の復習とミニテスト対策			

12. 泌尿器系－腎臓、ネフロン（腎小体、尿細管）、尿生成のしくみ、尿管、膀胱、尿道 pp.384－389		前回の講義内容の復習とミニテスト対策			
13. 生殖器系Ⅰ－男性生殖器：精巣、精子形成、精巣上体、精管 pp.390－392 生殖器系Ⅱ－女性生殖器：卵巣、卵管、子宮、卵巣・子宮周期のしくみ pp.390－397		前回の講義内容の復習とミニテスト対策			
14. 内分泌系－内分泌線と外分泌線、ホルモンと標的器官・受容体、下垂体、甲状腺、上皮小体、副腎 pp.398－404		前回の講義内容の復習とミニテスト対策			
定期試験（期末レポート）					
15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）					
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 10%	□レポート 0%	■定期試験 90%	□その他 0%
	基準等	毎回の授業中に実施する小テスト（記述式）を10%加算する。	特段のレポート課題はしない	国試形式の多肢選択や穴埋め、論述などで出題し、その成績を90%換算する。	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	野村 巖	「標準理学・作業療法学 解剖学第5版」		医学書院	2020
参考文献	横山千仞訳	「解剖学カラーアトラス 第8版」		医学書院	2016
	相磯貞和訳	「ネッター解剖学 カラーリングテキスト」原書第5版		南江堂	2011
履修要件等	特段なし				
研究室	1号館5階 第12研究室		オフィスアワー		

科目No.	FBM02-1R		授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	形態・機能学解剖領域Ⅱ		担当教員	後藤 隆洋		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	基礎医学、人体の構造と機能及び身体の発達	必修	2単位	後期(30h)	
	作業療法学					
教員の実務経験と授業内容の関連						
授業内容の要約	前期の同科目の内容を基礎として、後期の本科目では、動物性機能を有する各器官がどのような形態・構造であり、身体のどこに配置されているのかを系統的に学ぶ。さらに、構造の持つ機能を理解することが構造の理解に必須なので、機能学的側面からも考察を進め「人体」を総合的に理解してゆく。解剖学に親しむことにより、自分の体の構造と働きにも興味を持ちながら解剖学・医学用語に慣れ、臨床系の授業が理解しやすくなる。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 骨、筋、関節など運動器系の形態と構造について、正確に理解することができる 2. 神経系の構造を中枢神経と末梢神経に分けて、正確に理解することができる 3. 上・下行性伝導路について、その経路と機能を正確に理解することができる 4. 特殊感覚器の構造とその情報伝導路について、正確に理解することができる 5. 皮膚感覚器および深部感覚器の構造とその伝導路について、正確に理解することができる 					
授業形態 授業の進め方	講義。板書に加えて図の豊富な配布資料やスライドなど教育機器を適切に利用し解説する。毎回のミニテストの実施とフィードバックで理解不足な項目が明確になる。アクティブラーニング手法を取り入れ、前もって調べてきたことや授業で学んだことに対して教員と学生間及び学生間同士での意見交流を頻繁に行う。また、板書は多色の図が多いので色鉛筆を用意すること。					
授業計画			授業時間外に必要な学修	30分以上		
1. 骨格総論－形状による分類、骨の肉眼的・顕微鏡的構造、骨の発生とリモデリング、破骨細胞、骨芽細胞 pp.37－45			前期講義内容の復習			
2. 関節・靭帯総論－滑膜性連結を中心とした関節の種類と構造、関節の分類、関節の機能（可動性、固定、動きの感覚器） pp.97－112			前回の講義内容の復習とミニテスト対策			
3. 筋系総論－筋組織の種類と特徴、筋収縮メカニズム、骨格筋細胞と筋膜、筋の起始・停止、筋の作用・運動 pp.161－176			前回の講義内容の復習とミニテスト対策			
4. 神経系総論－ニューロン・シナプス・神経伝達物質、グリア、中枢・末梢神経系、灰白質・白質、髄膜と脳室、脳・脊髄の発生 pp.229－240			前回の講義内容の復習とミニテスト対策			
5. 脊髄神経総論－前根、後根、脊髄神経節、前枝、後枝 pp.278－280 自律神経系－交感神経、副交感神経 pp.311－314			前回の講義内容の復習とミニテスト対策			
6. 脳神経Ⅰ－第1～第6脳神経の線維構成と機能 pp.300－305			前回の講義内容の復習とミニテスト対策			
7. 脳神経Ⅱ－第7～第12脳神経の線維構成と機能 pp.305－311			前回の講義内容の復習とミニテスト対策			
8. 中枢神経Ⅰ－脊髄（前角、側角、後角、前索、側索、後索）、前根、後根、延髄（神経核、神経線維束） pp.241－249			前回の講義内容の復習とミニテスト対策			
9. 中枢神経Ⅱ－橋、中脳、小脳（小脳皮質、プルキンエ細胞、小脳核、小脳の入出力）、間脳（視床、視床下部） pp.249－258			前回の講義内容の復習とミニテスト対策			
10. 中枢神経Ⅲ－大脳半球（終脳）：外表面、皮質・髄質の構造、皮質の機能局在（運動・感覚・言語中枢）、大脳基底核 pp.258－267			前回の講義内容の復習とミニテスト対策			
11. 伝導路Ⅰ－上行性神経路：体性感覚（皮膚感覚、深部感覚）、視覚、聴覚、平衡覚、味覚、嗅覚の各神経路 pp.268－274			前回の講義内容の復習とミニテスト対策			

12. 伝導路Ⅱ－下行性神経路：錐体路（皮質脊髓路、皮質核路）、錐体外路系 pp.274－277		前回の講義内容の復習とミニテスト対策			
13. 感覚器系Ⅰ－皮膚の構造、皮膚感覚器、視覚器（眼球、毛様体、虹彩、網膜、視神経、外眼筋とその運動） pp.319－326		前回の講義内容の復習とミニテスト対策			
14. 感覚器系Ⅱ－平衡聴覚器（外・中・内耳、骨迷路と膜迷路、聴覚感受経路、平衡覚感受経路）、嗅覚器、味覚器 pp.326－331		前回の講義内容の復習とミニテスト対策			
定期試験（期末レポート）					
15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）					
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 10%	□レポート 0%	■定期試験 90%	□その他 0%
	基準等	毎回の授業中に実施する小テスト（記述式）を10%加算する。	特段のレポート課題はしない	国試形式の多肢選択や穴埋め、論述などで出題し、その成績を90%換算する。	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	野村 巖	「標準理学・作業療法学 解剖学第5版」		医学書院	2020
参考文献	横山千仞訳	「解剖学カラーアトラス 第8版」		医学書院	2016
	相磯貞和訳	「ネッター解剖学 カラーリングテキスト」原書第5版		南江堂	2011
履修要件等	特段なし				
研究室	1号館5階 第12研究室		オフィスアワー		

科目No.	FBM01-1R		授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	解剖学 I		担当教員	大籠 友博		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	基礎医学		必修	1単位	前期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連						
授業内容の要約	ヒトのからだは細胞から構成され、組織、器官、個体へと統合される。前期の本科目ではヒトのからだを植物性機能と動物性機能に分けて、植物性機能を有する各器官が身体のどこに配置され、どのような形態・構造・仕組みであるかを、組織学・細胞学、発生学などの多様な知見に立って正常系統的に学ぶ。また、機能学的な関連の側面からも考察を進め「人体」を総合的に理解してゆく。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 体腔という概念を理解し、そこに収まる器官の配置と関連性を理解することができる 2. 消化・吸収機能を持つ器官の形態と構造について、正確に理解することができる 3. 呼吸と発声メカニズムについての器官の形態と構造について、正確に理解することができる 4. 心臓を中心とした血液循環器系およびリンパ系について、正確に理解することができる 5. 泌尿器系での尿生成器官、生殖器系での生殖細胞発生について、正確に理解することができる 					
授業形態 授業の進め方	講義形式。本科目では講義開始後各回の小テストの返却、前回内容の小テストを実施する。本講義ではスライド提示とハンドアウト資料への書き込みをメインとする形態で進めるが、適宜質疑応答によるアクティブラーニング手法を取り入れる。色鉛筆を用意しハンドアウト資料への主体的な書き込みを行うこと。					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上	
1. 解剖学総論—解剖学とは(形態と機能)—解剖学の考え方、生物学における解剖学の位置、解剖学の種類、解剖学的正位、解剖学用語と方向用語、ラテン語の導入 pp.5-8				教科書の該当部分を一読しておくこと。高校での生物学の基礎知識および国語の漢字能力		
2. 細胞、器官、系統、細胞内小器官とその機能、遺伝子とDNA、遺伝情報の仕組み、上皮と支持組織、器官から個体へ pp.8-20				教科書の該当部分を一読しておくこと。前回の講義内容の復習とミニテスト対策		
3. 消化器系Ⅰ—口腔、歯、舌、唾液腺とその分泌 pp.333-334、370-373				教科書の該当部分を一読しておくこと。前回の講義内容の復習とミニテスト対策		
4. 消化器系Ⅱ—咽頭、食道・胃・十二指腸の構造、消化管と腹膜 pp.361-362、373-378、380				教科書の該当部分を一読しておくこと。前回の講義内容の復習とミニテスト対策		
5. 消化器系Ⅲ—実質器官である肝臓、膵臓、胆嚢と胆汁分泌、血糖値の調節 pp.378-383				教科書の該当部分を一読しておくこと。前回の講義内容の復習とミニテスト対策		
6. 呼吸器系Ⅰ—鼻腔、咽頭・喉頭、気管・気管支、呼吸の仕組み p.360-366				教科書の該当部分を一読しておくこと。前回の講義内容の復習とミニテスト対策		
7. 呼吸器系Ⅱ—肺区域、縦隔、副鼻腔、発声のメカニズム pp.366-369				教科書の該当部分を一読しておくこと。前回の講義内容の復習とミニテスト対策		
8. 循環器系Ⅰ—体循環と肺循環、心臓の構造と特殊伝導系 pp.335-340				教科書の該当部分を一読しておくこと。前回の講義内容の復習とミニテスト対策		
9. 循環器系Ⅱ—主要動脈とリンパ管、胎児循環 pp.340-350、355-359				教科書の該当部分を一読しておくこと。前回の講義内容の復習とミニテスト対策		
10. 循環器系Ⅲ—門脈と側副循環路、硬膜静脈洞、奇静脈 pp.350-355				教科書の該当部分を一読しておくこと。前回の講義内容の復習とミニテスト対策		
11. 泌尿器系—腎臓の構造、尿の生成と血圧調整、膀胱、尿路 pp.384-389				教科書の該当部分を一読しておくこと。前回の講義内容の復習とミニテスト対策		

12. 内分泌系－内分泌線と外分泌線、膜タンパクと液性調節 pp.398-406		教科書の該当部分を一読しておくこと。 前回の講義内容の復習とミニテスト対策			
13. 自律神経系－交感神経と副交感神経 pp.311-314		教科書の該当部分を一読しておくこと。 前回の講義内容の復習とミニテスト対策			
14. 生殖器系Ⅰ－男性生殖器 pp.390-392、生殖器系Ⅱ－女性生殖器、発生学 pp.392-397		教科書の該当部分を一読しておくこと。 前回の講義内容の復習とミニテスト対策			
定期試験（期末レポート）					
15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）					
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 10%	□レポート 0%	■定期試験 90%	□その他 0%
	基準等	毎回の授業中に実施する小テスト（記述式）を10%加算する。	特段のレポート課題はしない	国試形式の多肢選択や穴埋めで出題し、その成績を90%換算する。	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	野村 巖	「標準理学療法学・作業療法学 解剖学 第5版」		医学書院	2020
参考文献	横山千仞訳	「解剖学カラーアトラス 第8版」		医学書院	2016
	相磯貞和訳	「ネッター解剖学 カラーリングテキスト」原書第5版		南江堂	2011
履修要件等	特段なし				
研究室	1号館5階 第8研究室		オフィスアワー	毎週木曜日 12:00～13:00	

科目No.	FBM02-1R		授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	解剖学Ⅱ		担当教員	大籠 友博		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	基礎医学		必修	1単位	後期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連						
授業内容の要約	前期における本科目の内容を基礎として、後期では言語聴覚学で必要となる発生学および神経系を中心としての形態と構造を理解する。また、機能学的な側面からも考察して「人体」を総合的に理解してゆく。					
学修目標 到達目標	1. 受精から出生までの器官形成について正確に理解することができる 2. 神経系の構造を中枢神経と末梢神経に分けて正確に理解することができる 3. 上・下行性伝導路、特殊感覚路についてその経路と機能が正確に理解することができる					
授業形態 授業の進め方	講義形式。本科目では講義開始後各回の小テストの返却、前回内容の小テストを実施する。本講義ではスライド提示とハンドアウト資料への書き込みをメインとする形態で進めるが、適宜質疑応答によるアクティブラーニング手法を取り入れる。色鉛筆を用意しハンドアウト資料への主体的な書き込みを行うこと。					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上	
1. 筋学 1 -総論、発声に関わる筋、咽頭と喉頭の構造 pp.161-176, 361-366				教科書の該当部分を一読しておくこと。		
2. 筋学 2 -咀嚼運動、嚥下反射とそれに関わる筋および神経 pp.178-184, 381-383				教科書の該当部分を一読しておくこと。 前期に扱った咀嚼・嚥下について復習すること		
3. 発生学 1 -配偶子形成、受精、着床、卵割、胚胞の形成 pp.21-24				教科書の該当部分を一読しておくこと。 配偶子形成から着床までを復習すること		
4. 発生学 2 -三層性胚盤、神経管、体節、消化管発生 pp.24-26				教科書の該当部分を一読しておくこと。 胚胞～3層性胚盤について復習		
5. 器官発生 1 -咽頭器官、舌、顔面 pp.28-29				教科書の該当部分を一読しておくこと。 鰓弓について復習すること		
6. 器官発生 2 -呼吸器、耳の発生 pp.21-26				教科書の該当部分を一読しておくこと。 器官形成について復習すること		
7. 特殊循環 -胎児循環、脳底動脈系、硬膜静脈洞 pp.352-355, 335, 340-344				教科書の該当部分を一読しておくこと。 特殊循環、肺循環、体循環について		
8. 脳神経 1 第1~6脳神経と視覚器 pp.300-305, 323-326				教科書の該当部分を一読しておくこと。 脳神経を構成する神経線維の種類について		
9. 脳神経 2 第7~12脳神経と味覚、聴覚・平衡覚 pp.305-311, 326-332				教科書の該当部分を一読しておくこと。 遠心性・求心性神経線維について		
10. 中枢神経 1 神経系の発生、中枢神経の区分とその機能、脳幹 pp.237-249				教科書の該当部分を一読しておくこと。 神経系総論について復習すること		
11. 中枢神経 2 大脳の区分と脳地図、機能局在、優位半球 pp.256-265				教科書の該当部分を一読しておくこと。 脳地図、機能局在について		
12. 中枢神経 3 下行性伝導路 pp.274-277				教科書の該当部分を一読しておくこと。 下行性伝導路について		
13. 中枢神経 4 上行性伝導路、特殊感覚路 pp.268-274				教科書の該当部分を一読しておくこと。 上行性伝導路について		
14. 中枢神経 5 大脳辺縁系、papez 回路 pp.259-261				教科書の該当部分を一読しておくこと。 海馬、記憶に関わる回路について		
定期試験(定期試験期間における筆記試験で、資料は持ち込み不可)						

15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）					
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 10%	□レポート 0%	■定期試験 90%	□その他 0%
	基準等	毎回、講義中に小テスト(穴埋め式)を実施し、講義の理解度を評価し、その成績を10%換算する。	特段のレポート課題はしない	国試形式の多肢選択式や穴埋め式、論述などで出題し、その成績を90%換算する。	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	野村 巖	「標準理学療法学・作業療法学解剖学第5版」		医学書院	2020
参考文献	横山千仞訳	「解剖学カラーアトラス 第8版」		医学書院	2016
	相磯貞和訳	「ネッター解剖学 カラーリングテキスト」原書第5版		南江堂	2011
	寺島俊雄	カラー図解 神経解剖学講義ノート		金芳堂	2011
履修要件等	特段なし				
研究室	1号館5階 第8研究室		オフィスアワー	毎週木曜日 12:00~13:00	

科目№	FBM03-1R		授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	形態・機能学生理領域 I		担当教員	坪田 裕司		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	基礎医学、人体の構造と機能及び身体の発達		必修	2単位	前期 (30h)
	作業療法学					

教員の実務経験と授業内容の関連	
-----------------	--

授業内容の要約	<p>身体の異常を把握・理解する為には、正常な姿を理解しておく必要があることはいうまでもない。生理学では、人体の細かな機能と、それらを統合する生体機能の自己調節、恒常性の維持機構、適応について学習し、生きている仕組みを総合的に理解できるように学ぶ。</p>	
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の基本的生理機能を理解できる。 2. 細胞から臓器、個体レベルまで機能している生理的システムをイメージできる。 3. 生命現象における基本的な知識を学習して、今生きている、命を支えている体の仕組みを説明出来る。 	
授業形態 授業の進め方	<p>講義ポイントのまとめ資料をあらかじめ配布する。まとめ資料を読んでおよその講義内容を把握しておくこと。国試はもちろん専門科目の基礎として重要な内容ばかりであるから、授業で触れられなかった部分も含め十分な予習復習が重要である。</p>	
	授業計画	授業時間外に必要な学修 30分以上
	1. 細胞生物学、生命の単位、(細胞の構造、細胞膜、遺伝と進化、ATP)	はじめにまとめ資料小冊子を配布するので、該当する章の復習
	2. 消化と吸収 (三大栄養素、消化管、消化酵素、蛋白質、糖質、脂質)	まとめ資料小冊子の該当する章の予習と復習
	3. 代謝と栄養 (蛋白質代謝、糖質代謝、脂質代謝、エネルギー代謝)	まとめ資料小冊子の該当する章の予習と復習
	4. 血液 (赤血球、白血球、血小板、血色素とその代謝、酸素と二酸化炭素)	まとめ資料小冊子の該当する章の予習と復習
	5. 呼吸 (呼吸器、呼吸運動、ガス交換)	まとめ資料小冊子の該当する章の予習と復習
	6. 循環：心臓と心電図 (心臓の構造と機能、血管系、刺激伝導系、心電図の基礎)	まとめ資料小冊子の該当する章の予習と復習
	7. 微小循環、脳循環とリンパ循環 (間質液、脳脊髄液、脳脊髄液関門、リンパ管)	まとめ資料小冊子の該当する章の予習と復習
	8. 尿生成と排泄 (腎臓の構造と機能、利尿)	まとめ資料小冊子の該当する章の予習と復習
	9. 細胞膜と物質の出入り (受容体、興奮性細胞、神経細胞、静止膜電位)	まとめ資料小冊子の該当する章の予習と復習
	10. 神経線維、興奮の伝導 (インパルス、シナプス伝達、跳躍伝導、神経伝達物質)	まとめ資料小冊子の該当する章の予習と復習

11. 神経の情報伝達（興奮性と抑制性接続、神経系、中枢神経、末梢神経）		まとめ資料小冊子の該当する章の予習と復習			
12. 感覚（感覚と知覚、体性感覚、内臓感覚）		まとめ資料小冊子の該当する章の予習と復習			
13. 感覚（深部感覚、視覚）		まとめ資料小冊子の該当する章の予習と復習			
14. 感覚（視覚続き、聴覚、味覚、嗅覚、平衡感覚）		まとめ資料小冊子の該当する章の予習と復習			
定期試験（期末レポート）					
15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）					
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 55%	■レポート 3%	■定期試験 40%	■その他 2%
	基準等	全体 1/3、2/3 ほどで 中間テストを 2 回行 なう	提出物で評価する	中間テストと合わせ て評価する	講義への参加度 合いで評価する
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	KimE. Barerett, 他著 岡田泰伸 他訳	「ギャノン生理学 原書 25 版」		丸善	2017
参考文献	桑名俊一他編著	生理学		理工図書	2016
履修要件等	高校生物学履習済みもしくは生物学履習中であること。				
研究室	1号館5階 第11研究室		オフィスアワー	毎週水曜日 16:20～17:50	

科目№	FBM04-1R		授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	形態・機能学生理領域Ⅱ		担当教員	坪田 裕司		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	基礎医学、人体の構造と機能及び身体の発達		必修	2単位	後期(30h)
	作業療法学					
教員の実務経験と授業内容の関連						
授業内容の要約	<p>身体の異常を把握・理解する為には、正常な姿を理解しておく必要があることはいうまでもない。生理学では、人体の細かな機能と、それらを統合する生体機能の自己調節、恒常性の維持機構、適応について学習し、生きている仕組みを総合的に理解できるように学ぶ。</p>					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の基本的生理機能を理解できる。 2. 細胞から臓器、個体レベルまで機能している生理的システムをイメージできる。 3. 生命現象における基本的な知識を学習して、今生きている、命を支えている体の仕組みを説明出来る。 					
授業形態 授業の進め方	<p>講義ポイントのまとめ資料をあらかじめ配布する。まとめ資料を読んでおよその講義内容を把握しておくこと。国試はもちろん専門科目の基礎として重要な内容ばかりであるから、授業で触れられなかった部分も含め十分な予習復習が重要である。</p>					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上	
1. 筋（筋細胞、筋収縮、筋繊維の構造、興奮収縮連関）				はじめにまとめ資料小冊子を配布するので、該当する章の復習		
2. 筋（筋細胞、筋収縮のエネルギー、疲労、筋の種類）				まとめ資料小冊子の該当する章の予習と復習		
3. 筋感覚（筋紡錘、筋反射、大脳基底核、小脳、運動調節、運動障害）				まとめ資料小冊子の該当する章の予習と復習		
4. 運動生理（運動負荷と心拍数、基礎代謝、RMR、METs、エクササイズ）				まとめ資料小冊子の該当する章の予習と復習		
5. 自律神経系（交感神経系、副交感神経系、自律神経の中 枢、視床下部）				まとめ資料小冊子の該当する章の予習と復習		
6. 体温調節（体温調節中枢、自律神経、発汗）				まとめ資料小冊子の該当する章の予習と復習		
7. 高次脳神経（本能、記憶と学習、統合機能、睡眠、脳波）				まとめ資料小冊子の該当する章の予習と復習		
8. 循環（循環調節、血圧、異常心電図）				まとめ資料小冊子の該当する章の予習と復習		
9. 呼吸（神経性調節、反射、呼吸量、酸素負債）				まとめ資料小冊子の該当する章の予習と復習		
10. 内分泌（ホルモン、フィードバック、恒常性）【中村美砂】				まとめ資料小冊子の該当する章の予習と復習		
11. 内分泌（続き）【中村美砂】				まとめ資料小冊子の該当する章の予習と復習		

12. 内分泌と神経性調節、生体システムと恒常性（恒常性維持、ストレス） 生体防御と免疫（自然免疫、獲得免疫、リンパ球）		まとめ資料小冊子の該当する章の予習と復習			
13. 体液の平衡（体液量、電解質、アシドーシスとアルカローシス、恒常性）		まとめ資料小冊子の該当する章の予習と復習			
14. 成長と老化（加齢変化、廃用症候群、認知症の予防）		まとめ資料小冊子の該当する章の予習と復習			
定期試験（期末レポート）					
15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）					
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 40%	■レポート 3%	■定期試験 55%	■その他 2%
	基準等	全体1/2ほどで中間テストを1回行なう	提出物で評価する	中間テストと合わせて評価する	講義への参加度合いで評価する
教科書	著者	KimE. Barerett, 他著 岡田泰伸 他訳	タイトル 「ギャノン生理学 原書 25 版」	出版社 丸善	発行年 2017
	参考文献	桑名俊一他編著	生理学	理工図書	2016
履修要件等	形態・機能学生理領域Ⅰ履習済みもしくは再履修予定であること。				
研究室	1号館5階 第11研究室	オフィスアワー	毎週水曜日 16:20～17:50		

科目No.	FBM05-1R		授業形態	実習	開講年次	1年次
授業科目名	解剖学実習 I		担当教員	大籠 友博		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	基礎医学、人体の構造と機能及び身体の発達		必修	1単位	前期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連						
授業内容の要約	形態・機能学解剖領域 I いわゆる解剖学座学で学んでいる知識と並行して、特に骨格や筋肉、関節などの運動器の構造・形態を学ぶ。筋や骨格がどのように配されて、どのような仕組みで運動するのかを学ぶ。骨格標本を手に触れ部位の名称を学び、さらに筋肉、血管、神経の走行、それらの立体構造や物理力学的な働き、ベクトルやトルクなどと関連付けながら理解を深める。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 上肢骨格の骨名およびその詳細な部位名を正確に言うことができる 2. 筋肉の起始・停止・作用および支配神経を正確に言うことができる 3. 骨格模型を用いて筋肉の起始・停止・作用を毛糸・テープなどで表現することができる 4. 関節の種類と運動を正確に言うことができる。また、自らの身体で表現できる 					
授業形態 授業の進め方	実習を基本とする。学生を4人1グループに編成し、各グループに骨格標本模型1箱を貸与する。毎回、学習目標を設定して学習の達成を図る。骨名はラテン語や英語の名称で覚えることが望ましい。各回の冒頭に、チェックリストや実習要領を配布するので、それに従って実習を進行すること。各回の最後には確認試問を行う。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30分以上
1. 骨学実習／ガイダンス・総論・全身骨格の点検と照合				教科書に沿った予習		
2. 骨学実習／椎骨の種類と数、脊柱・脊柱彎曲				教科書に沿った予習		
3. 骨学実習／上肢帯と胸郭の骨（鎖骨、肩甲骨）と肋骨、胸骨				教科書に沿った予習		
4. 骨学実習／自由上肢の骨（上腕骨、前腕骨、手根骨）				教科書に沿った予習		
5. 関節学実習／主な関節の構造と運動の種類、腕神経叢の構成				教科書に沿った予習		
6. 筋学実習／上肢帯の筋（僧帽筋、肩甲挙筋、大・小菱形筋、前鋸筋、大・小胸筋）				教科書に沿った予習		
7. 筋学実習／上腕の筋（上腕前面の筋、上腕後面の筋）				教科書に沿った予習		
8. 筋学実習／前腕前面の筋（浅層、手関節屈筋群）				教科書に沿った予習		
9. 筋学実習／前腕前面の筋（深層、手関節および指関節屈筋群）				教科書に沿った予習		
10. 筋学実習／前腕後面の筋（手関節および指関節伸筋群）				教科書に沿った予習		
11. 筋学実習／手の筋 I 母指球筋				教科書に沿った予習		
12. 筋学実習／手の筋 II 小指球筋と手掌筋				教科書に沿った予習		
13. 筋学実習／体幹から上腕への筋／頸部前面の筋				教科書に沿った予習		
14. 脊柱を構成する骨と脊柱の運動				教科書に沿った予習		
定期試験（期末レポート）						
15. 総括及びフィードバック（小テストや定期試験の解答・解説）						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 20%	□レポート %	■定期試験 80%	□その他 0%	
	基準等	授業内容を理解したかの確認試問を毎回行う。		定期試験中での試験を80%換算して判定する。		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	野村 巖	「標準理学療法学・作業療法学 解剖学第5版」		医学書院	2020	

参考文献	横山千仞訳	「解剖学カラーアトラス 第8版」	医学書院	2016
	寺田 春水	「骨学実習の手引き」第4版	南山堂	1992
履修要件等	特段なし			
研究室	1号館5階 第8研究室	オフィスアワー	毎週木曜日 12:00~13:00	

科目No.	FBM05-1R		授業形態	実習	開講年次	1年次
授業科目名	解剖学実習 I		担当教員	後藤 隆洋		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	作業療法学	基礎医学、人体の構造と機能及び身体の発達		必修	1単位	前期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連						
授業内容の要約	形態・機能学解剖領域 I いわゆる解剖学座学で学んでいる知識と並行して、特に骨格や筋肉、関節などの運動器の構造・形態を学ぶ。筋や骨格がどのように配されて、どのような仕組みで運動するのかを学ぶ。骨格標本を手に触れ部位の名称を学び、さらに筋肉、血管、神経の走行、それらの立体構造や物理力学的な働き、ベクトルやトルクなどと関連付けながら理解を深める。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 上肢骨格の骨名およびその詳細な部位名を正確に言うことができる 2. 筋肉の起始・停止・作用および支配神経を正確に言うことができる 3. 骨格模型を用いて筋肉の起始・停止・作用を毛糸・テープなどで表現することができる 4. 関節の種類と運動を正確に言うことができる。また、自らの身体で表現できる 					
授業形態 授業の進め方	実習を基本とする。学生を4人1グループに編成し、各グループに骨格標本模型1箱を貸与する。毎回、実習の学習目標を設定して学習の達成を図る。骨名はラテン語や英語の名称で覚えることが望ましい。予め、実習要領を配布するので、それに従って予習すること。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 骨学実習/全身骨格の点検と照合			実習要領に沿った予習			
2. 骨学実習/椎骨の種類と数、脊柱・脊柱湾曲			実習要領に沿った予習			
3. 骨学実習/上肢帯と胸郭の骨(鎖骨、肩甲骨)と肋骨、胸骨			実習要領に沿った予習			
4. 骨学実習/自由上肢の骨(上腕骨、前腕骨、手根骨)			実習要領に沿った予習			
5. 関節学実習/主な関節の構造と運動の種類、腕神経叢の構成			実習要領に沿った予習			
6. 筋学実習/上肢帯の筋(僧帽筋、肩甲挙筋、大・小菱形筋、前鋸筋、大・小胸筋)			実習要領に沿った予習			
7. 筋学実習/上腕の筋(上腕前面の筋、上腕後面の筋)			実習要領に沿った予習			
8. 筋学実習/前腕前面の筋(浅層、手関節屈筋群)			実習要領に沿った予習			
9. 筋学実習/前腕前面の筋(深層、手関節および指関節屈筋群)			実習要領に沿った予習			
10. 筋学実習/前腕後面の筋(手関節および指関節伸筋群)			実習要領に沿った予習			
11. 筋学実習/手の筋I母指球筋			実習要領に沿った予習			
12. 筋学実習/手の筋II小指球筋と手掌筋			実習要領に沿った予習			
13. 筋学実習/体幹から上腕への筋/頸部前面の筋			実習要領に沿った予習			
14. 脊柱を構成する骨と脊柱の運動			実習要領に沿った予習			
定期試験(期末レポート)						
15. 総括及びフィードバック(定期試験の解答・解説)						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 20%		□レポート %		■定期試験 80%
	基準等	授業内容を理解したかの確認試験を毎回行う。レベルに達するまで行う。				□その他 %
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	野村 巖	「標準理学・作業療法学 解剖学第5版」		医学書院		2020

参考文献	横山千仞訳	「解剖学カラーアトラス 第8版」	医学書院	2016
	寺田 春水	「骨学実習の手引き」第4版	南山堂	1992
履修要件等	特段なし			
研究室	1号館5階 第12研究室	オフィスアワー		

科目No.	FBM06-1R		授業形態	実習	開講年次	1年次
授業科目名	解剖学実習Ⅱ		担当教員	大籠 友博		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	基礎医学、人体の構造と機能及び身体の発達		必修	1単位	後期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連						
授業内容の要約	形態・機能学解剖領域Ⅱ、いわゆる座学で学んだ知識を基礎として、骨格や筋肉、関節などの運動器の構造・形態を学ぶ。筋や骨格がどのような広がりを示し、どのような仕組みで運動するのかを学ぶ。骨格標本を手にとり部位の名称を学び、さらに筋肉、血管、神経の走行、それらの立体構造や物理力学的な働き、ベクトルやトルクなどと関連付けながら理解を深める。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 下肢骨格の骨名およびその詳細な部位名を正確に言うことができる 2. 筋肉の起始・停止・作用および支配神経を正確に言うことができる 3. 骨格模型を用いて筋肉の起始・停止・作用を毛糸・テープなどで表現することができる 4. 関節の種類と運動を正確に言うことができる。また、自らの身体で表現できる 					
授業形態 授業の進め方	実習を基本とする。学生を4人1グループに編成し、各グループに骨格標本模型1箱を貸与する。毎回、学習目標を設定して学習の達成を図る。骨名はラテン語や英語の名称で覚えることが望ましい。各回の冒頭に、チェックリストや実習要領を配布するので、それに従って実習を進行すること。各回の最後には確認試験を行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 骨学実習/下肢の骨格照合、骨盤を構成する骨と大腿骨			教科書に沿った予習			
2. 骨学実習/自由下肢の骨-脛骨、腓骨と股関節、膝関節の構造、運動、靭帯			教科書に沿った予習			
3. 骨学実習/足根骨、中足骨の左右判定、半関節			教科書に沿った予習			
4. 骨学実習/脳神経と通過する孔			教科書に沿った予習			
5. 筋学実習/殿部の筋、大腿の筋膜			教科書に沿った予習			
6. 筋学実習/外旋6筋(上下双子筋、梨状筋、内外閉鎖筋、大腿方形筋)			教科書に沿った予習			
7. 筋学実習/大腿前面の筋(大腿4頭筋、縫工筋など)			教科書に沿った予習			
8. 腰仙骨神経叢の構成			教科書に沿った予習			
9. 筋学実習/大腿後面の筋(ハムストリングの筋)			教科書に沿った予習			
10. 筋学実習/大腿内転の筋			教科書に沿った予習			
11. 筋学実習/下腿前面の筋と側面の筋			教科書に沿った予習			
12. 筋学実習/下腿後面の筋			教科書に沿った予習			
13. 筋学実習/足部の筋			教科書に沿った予習			
14. 筋学実習/固有背筋			教科書に沿った予習			
定期試験(期末レポート)						
15. 総括及びフィードバック(定期試験の解答・解説)						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 20%	□レポート	%	■定期試験 80%	□その他 %
	基準等	授業内容を理解したかの確認試験を毎回行う。レベルに達するまで行う。			定期試験中での試験80%換算して判定する。	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	

	野村 巖	「標準理学療法学・作業療法学 解剖学第5版」	医学書院	2020
参考文献	横山千仞訳	「解剖学カラーアトラス 第8版」	医学書院	2016
	寺田 春水	「骨学実習の手引き」第4版	南山堂	1992
履修要件等	特段なし			
研究室	1号館5階 第8研究室	オフィスアワー	毎週木曜日 12:00~13:00	

科目No.	FBM06-1R		授業形態	実習	開講年次	1年次
授業科目名	解剖学実習Ⅱ		担当教員	後藤 隆洋		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	作業療法学	基礎医学、人体の構造と機能及び身体の発達		必修	1単位	後期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連						
授業内容の要約	形態・機能学解剖領域Ⅱ、いわゆる座学で学んだ知識を基礎として、骨格や筋肉、関節などの運動器の構造・形態を学ぶ。筋や骨格がどのような広がりや示し、どのような仕組みで運動するのかを学ぶ。骨格標本を手にとり部位の名称を学び、さらに筋肉、血管、神経の走行、それらの立体構造や物理力学的な働き、ベクトルやトルクなどと関連付けながら理解を深める。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 下肢骨格の骨名およびその詳細な部位名を正確に言うことができる 2. 筋肉の起始・停止・作用および支配神経を正確に言うことができる 3. 骨格模型を用いて筋肉の起始・停止・作用を毛糸・テープなどで表現することができる 4. 関節の種類と運動を正確に言うことができる。また、自らの身体で表現できる 					
授業形態 授業の進め方	実習を基本とする。学生を4人1グループに編成し、各グループに骨格標本模型1箱を貸与する。毎回、実習の学習目標を設定して学習の達成を図る。骨名はラテン語や英語の名称で覚えることが望ましい。予め、実習要領を配布するので、それに従って予習すること。					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上	
1. 骨学実習/下肢の骨格照合、骨盤を構成する骨と大腿骨				実習要領に沿った予習		
2. 骨学実習/自由下肢の骨-脛骨、腓骨と股関節、膝関節の構造、運動、靭帯				実習要領に沿った予習		
3. 骨学実習/足根骨、中足骨の左右判定、半関節				実習要領に沿った予習		
4. 骨学実習/脳神経と通過する孔				実習要領に沿った予習		
5. 筋学実習/殿部の筋、大腿の筋膜				実習要領に沿った予習		
6. 筋学実習/外旋6筋(上下双子筋、梨状筋、内外閉鎖筋、大腿方形筋)				実習要領に沿った予習		
7. 筋学実習/大腿前面の筋(大腿四頭筋、縫工筋など)				実習要領に沿った予習		
8. 腰仙骨神経叢の構成				実習要領に沿った予習		
9. 筋学実習/大腿後面の筋(ハムストリングの筋)				実習要領に沿った予習		
10. 筋学実習/大腿内転の筋				実習要領に沿った予習		
11. 筋学実習/下腿前面の筋と側面の筋				実習要領に沿った予習		
12. 筋学実習/下腿後面の筋				実習要領に沿った予習		
13. 筋学実習/足部の筋				実習要領に沿った予習		
14. 筋学実習/固有背筋				実習要領に沿った予習		
定期試験(期末レポート)						
15. 総括及びフィードバック(定期試験の解答・解説)						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 20%	□レポート %	■定期試験 80%	□その他 %	
	基準等	授業内容を理解したかの確認試験を毎回行う。レベルに達するまで行う。		定期試験中での実習試験80%換算して判定する。		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	野村 巖	「標準理学・作業療法学 解剖学第5版」		医学書院	2020	

参考文献	横山千仞訳	「解剖学カラーアトラス 第8版」	医学書院	2016
	寺田 春水	「骨学実習の手引き」第4版	南山堂	1992
履修要件等	特段なし			
研究室	1号館5階 第12研究室		オフィスアワー	

科目No	FBM07-1R		授業形態	実習	開講年次	1年次
授業科目名	生理学実習		担当教員	坪田 裕司		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	基礎医学、人体の構造と機能及び身体の発達		必修	1単位	後期 (30h)
	作業療法学					

教員の実務経験と授業内容の関連

授業内容の要約	<p>身体の異常を把握・理解する為には、正常な姿を理解しておく必要があることはいうまでもない。生理学実習では、座学の生理学で学習した内容を、実験実習を通して経験し具体性のあるイメージとして理解する。論文形式でレポートを作成し、データのまとめ方とその評価についても学習する。実習なので、3コマ連続で行い、実験実習とその考察を班で進め、アクティブラーニング(グループワーク)を主体に進める。休憩時間等は適宜設定する。班構成は毎回ランダムに設定する。</p>		
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の基本的生理機能を理解し、実習に関連する生理学的背景情報を理解できる 2. 得られた結果を自分の言葉で説明できる 3. 実習結果について他の人と論理的に討論出来る 4. 実習内容を簡潔に論文形式でまとめ、論理的な言葉と文章で考察出来る 5. 誰とでもコミュニケーションを取り課題をこなせる 		
授業形態 授業の進め方	<p>5～7名単位で班を作り、各自が自主性を持って実験に当たる。被験者等の役目が偏らないように全員で実習すること。結果として得られたデータについては共有して、各班で討論して考察を深めるが、実習レポートは個人で作成し、自分の文章でまとめること。実験器具の準備や後片づけも積極的に責任持つて行う。運動系の人体生理実習では短パン等の軽装運動着、それ以外では白衣を着用する等、実習しやすい服装で出席すること。</p>		
授業計画		授業時間外に必要な学修	30分以上
1. オリエンテーション		実習書を配布し留意事項等を把握する	
2. 表皮感覚 (圧点痛点の分布)		実習書の該当章を理解する。	
3. データのまとめ方と報告書レポートの書き方		実習書の該当章を理解する。	
4. 運動負荷と心拍数		実習書の該当章を理解する。	
5. V02max の測定と体力評価		実習書の該当章を理解する。	
6. V02max の測定と体力評価		実習書の該当章を理解する。	
7. 運動負荷と呼吸調節、酸素負債		実習書の該当章を理解する。	
8. 運動負荷と呼吸調節、酸素負債		実習書の該当章を理解する。	
9. 運動負荷と呼吸調節、酸素負債		実習書の該当章を理解する。	
10. 腎機能、水負荷試験と排尿量の調節		実習書の該当章を理解する。	
11. 腎機能、水負荷試験と排尿量の調節		実習書の該当章を理解する。	
12. 腎機能、水負荷試験と排尿量の調節		実習書の該当章を理解する。	
13. 神経伝導速度		実習書の該当章を理解する。	
14. 神経伝導速度		実習書の該当章を理解する。	
15. 神経伝導速度、小テスト		実習書の該当章を理解する。	

総括としては、個別レポート課題への添削とフィードバックをこれに当てる。

成績評価方法	項目	■課題・小テスト 5%	■レポート 40 %	■その他 55 %	□備考
	基準等	項目により課題を出す。グループワークにおける貢献度を評価する。	実習レポート（2回の提出を義務とする）を加味して評価する	実習態度、実習への参加度を重視する。特に班でのグループワークにおける貢献度を評価する。	1回欠席者は評価C以上あるいはDが2回のレポートがないと単位が認定されない
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	KimE. Barerett, 他著 岡田泰伸 他訳	「ギャノン生理学 原書 25 版」		丸善	2017
参考文献	桑名俊一他編著	生理学		理工図書	2016
履修要件等	高校生物学履習済みもしくは生物学履習中であること。				
研究室	1号館5階 第11研究室		オフィスアワー	毎週水曜日 16:20~17:50	

科目No.	FBM03-1R		授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	生理学 (S T)		担当教員	野村 幸子		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	基礎医学		必修	1単位	後期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連						
授業内容の要約	身体の異常を理解するためには、まず正常な状態を理解することが非常に重要である。生理学では、ヒトの体の正常な機能を維持するための細胞、組織や器官の仕組みについて学修する。					
学修目標 到達目標	1. 人体のメカニズムを学習し、その機能について理解できる 2. 専門分野学習の基礎を身につけ、専門分野の学習が円滑にできる 3. 人体の構造を学ぶ解剖学や疾患を学ぶ臨床医学との関連が理解できる					
授業形態 授業の進め方	教科書、配布プリント、スライドを使用					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上	
1.	第1章：生理学の基礎			該当範囲を予め読み、講義後はノートまとめ等での復習を行うことが望ましい		
2.	第2章：神経の基本的機能			該当範囲を予め読み、講義後はノートまとめ等での復習を行うことが望ましい		
3.	第3章：神経系の機能			該当範囲を予め読み、講義後はノートまとめ等での復習を行うことが望ましい		
4.	第4章：感覚の生理			該当範囲を予め読み、講義後はノートまとめ等での復習を行うことが望ましい		
5.	第5章：筋肉・運動の生理			該当範囲を予め読み、講義後はノートまとめ等での復習を行うことが望ましい		
6.	第6章：運動の制御機構			該当範囲を予め読み、講義後はノートまとめ等での復習を行うことが望ましい		
7.	第7章：血液の生理			該当範囲を予め読み、講義後はノートまとめ等での復習を行うことが望ましい		
8.	第8章：循環の生理			該当範囲を予め読み、講義後はノートまとめ等での復習を行うことが望ましい		
9.	第9章：呼吸			該当範囲を予め読み、講義後はノートまとめ等での復習を行うことが望ましい		
10.	第10章：消化・吸収			該当範囲を予め読み、講義後はノートまとめ等での復習を行うことが望ましい		
11.	第11章：栄養・代謝			該当範囲を予め読み、講義後はノートまとめ等での復習を行うことが望ましい		
12.	第12章：腎臓の生理 / 第13章：体液の恒常性			該当範囲を予め読み、講義後はノートまとめ等での復習を行うことが望ましい		

13. 第14章：内分泌		該当範囲を予め読み、講義後はノートまとめ等での復習を行うことが望ましい			
14. 第15章：体温の調節		該当範囲を予め読み、講義後はノートまとめ等での復習を行うことが望ましい			
定期試験（期末レポート）					
15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）					
成績評価方法	項目	<input type="checkbox"/> 課題・小テスト 10 %	<input type="checkbox"/> レポート %	<input type="checkbox"/> 定期試験 80 %	<input type="checkbox"/> その他 10 %
	基準等	復習のための小テストを随時実施する		定期試験で講義内容全般についての理解度を評価する	授業への取り組み方
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	桑田俊一・荒田晶子	「新版 生理学」（メディカルスタッフ専門基礎科目シリーズ）		理工図書	2019
参考文献	KimE. Barerett, 他 著 岡田泰伸他訳	「ギャノン生理学 原書25版」		丸善	2017
履修要件等					
研究室	1号館1階 非常勤講師控室		オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。	

科目No.	FBM08-1R, FBM08-1E		授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	運動学		担当教員	小峯 武陸		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	基礎医学、人体の構造と機能及び身体の発達		必修	1単位	前期(16h)
	作業療法学					
	言語聴覚学	基礎医学	選択必修			
教員の実務経験と授業内容の関連	通所・訪問リハビリテーションの経験からリハビリテーション領域の基本的・応用的動作能力について説明し、これからの基礎となる知識・考え方を伝える。					
授業内容の要約	リハビリテーション領域におけるチームアプローチを学ぶための基本的な知識と考え方を講義・実演形式で学ぶことができる。さらに今後の専門性を効率的に学習するために不可欠な前段階の領域を理解することができる。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 身近な自然科学について体験学習を通じ、理解を深めることができる。 体験学習で興味のある内容をより深く学習することができる。 身体運動に関する基礎的なバイオメカニクスについて説明ができる。 					
授業形態 授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> 座席を指定し、出席管理を行う。 私語など授業にふさわしくない態度・行動には厳しく対応する。 					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30分以上
1. 自然科学に存在する単位について：国際単位系				左項目の期末レポート作成		
2. 伝導と伝達について（※電話を体験しよう）：伝える				左項目の期末レポート作成		
3. 抗重力活動とは：筋活動について				左項目の期末レポート作成		
4. 体性感覚と視覚の役割：生活に必要なこと				左項目の期末レポート作成		
5. テコの働きを利用した生活用品：てこの原理				左項目の期末レポート作成		
6. 運動を伝える：身振り・手ぶり				左項目の期末レポート作成		
7. 身近なエネルギーの変換：生活活動について				左項目の期末レポート作成		
定期試験（期末レポート）						
8. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	■レポート 40 %	■定期試験 60 %	□その他 %	
	基準等	各授業内課題レポート		理解度を評価する		
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	特になし					
参考文献						
履修要件等						
研究室	1号館4階 第3研究室		オフィスアワー	毎週月曜日 12:10~12:50		

科目No.	FBM09-1R, FBM05-1R		授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	病理学		担当教員	中村 美砂		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	基礎医学、人体の構造と機能及び身体の発達		必修	1単位	後期(30h)
	作業療法学					
	言語聴覚学	基礎医学				
教員の実務経験と授業内容の関連						
授業内容の要約	「病気はどんな原因(病因)で起こり、体にどのような変化(病変)を起こすか」を学修し、病気についての正しい理解を行う。前半の総論では、全身の臓器に共通する一般的な原理を述べ、後半では主要臓器を総論の内容に当てはめて進める。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病理学用語を定義に従って用いることができる 2. 各種病気の成り立ち、病因について、形態学的変化と関連させて説明できる 3. 臨床医学における病理診断の役割を説明できる 					
授業形態 授業の進め方	授業は、教科書と配布プリントに沿って行う。 解剖学や生理学などの知識が必要となるので、これらを復習しながら受講すること。					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上	
1. 病理学とは何か。細胞障害と細胞増殖(教科書 pp.1~19)				進行性病変と退行性病変についてまとめる。		
2. 組織、細胞の修復と再生(教科書 pp.21~28)				創傷治癒の過程についてまとめる。		
3. 循環障害(教科書 pp.29~44)				局所的循環障害と全身的循環障害についてまとめる。		
4. 炎症(教科書 pp.45~56)				急性炎症と慢性炎症についてまとめる。		
5. [小テスト①] 感染症(教科書 pp.57~66)				病原体の種類とそれらによって生じる感染症をまとめる。		
6. 免疫機構の異常Ⅰ(教科書 pp.67~76)				アレルギー反応の分類とそれぞれの代表的疾患についてまとめる。		
7. 免疫機構の異常Ⅱ(教科書 pp.76~79)				自己免疫疾患についてまとめる		
8. 遺伝と先天異常(教科書 pp.81~94)				代表的な染色体異常症および遺伝性疾患についてまとめる。		
9. 腫瘍Ⅰ(教科書 pp.95~100)				腫瘍の概念と命名法についてまとめる。		
10. 腫瘍Ⅱ(教科書 pp.100~117)				悪性腫瘍の進展と転移様式についてまとめる。		
11. [小テスト②] 代謝異常(教科書 pp.119~128)				代謝異常症の原因と病態についてまとめる。		
12. 老化(教科書 pp.129~142)				老化による細胞・組織・臓器の変化をまとめる。		
13. 循環器・呼吸器・消化器(教科書 pp.143~177, pp.187~215)				それぞれの代表的な疾患について病理学的特徴をまとめる。		

14. 神経系・運動器 (教科書 pp.297～316, pp.335～355)		それぞれの代表的な疾患について病理学的特徴をまとめる。			
定期試験 (期末レポート)					
15. 総括及びフィードバック (定期試験の解答・解説)		試験で不正解の領域をもう一度復習する。			
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 20%	□レポート %	■定期試験 80%	□その他 %
	基準等	指定した講義の内容について小テスト (2回) を実施し、理解度を評価する。		全講義の内容についての理解度を評価する。	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	笹野公伸ほか	「シンプル病理学 第7版」		南江堂	2015
参考文献	坂本穆彦	「標準病理学 第6版」		医学書院	2019
履修要件等					
研究室	1号館5階 第10研究室		オフィスアワー	毎週月曜日 13:00～14:30	

科目No.	FBM10-1R, FBM06-1E		授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	発育発達学 (含運動発達学)		担当教員	木村 秀生		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	基礎医学、人体の構造と機能及び身体の発達		必修	1単位	前期 (16h)
	作業療法学					
	言語聴覚学	基礎医学		選択必修		
教員の実務経験と授業内容の関連	小児、成人、高齢者を対象とする施設で勤務経験のある教員が生涯を通じた発達について講義する。					
授業内容の要約	発育発達学は受精卵から始まり人の死までを論じる学問である。身体のみならず認知面も含んでおり、生きる意味とか人生における様々な問題まで広く深く考えてもらう機会になればと思います。					
学修目標 到達目標	1. 人の発達がいかなるものであるかを理解できる。 2. 人は変化し続けるものだということを知ることができる。 3. 発育発達学を通して、今までとは違った視点で人生を考えることができる。					
授業形態 授業の進め方	各々の受講者自身のこれまでの成育歴も振り返ることができるような内容で講義を進めたい。講義の流れに沿ったディスカッションやプレゼンテーションも取り入れていきたい。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30分以上
1. 人間発達の概念 (教科書 p2 ~ 27)				講義内容を復習しノートにまとめる。		
2. 胎児・新生児期・幼児期 (教科書 p28 ~ 67)				講義内容を復習しノートにまとめる。		
3. 学童期・青年期 (教科書 p68 ~ 102)				講義内容を復習しノートにまとめる。		
4. 成人期・高齢期 (教科書 p103 ~ 150)				講義内容を復習しノートにまとめる。		
5. 原始反射・姿勢反射・視覚の発達 (教科書 p151 ~ 190)				講義内容を復習しノートにまとめる。		
6. 聴覚・言語の機能と発達・ハンドスキル (教科書 p191 ~ 219)				講義内容を復習しノートにまとめる。		
7. 心理・社会的機能・発達検査 (教科書 p220 ~ 276)				講義内容を復習しノートにまとめる。		
定期試験						
8. 総括及びフィードバック (定期試験の解答・解説)				講義内容を復習しノートにまとめる。		
成績評価方法	項目	<input type="checkbox"/> 課題・小テスト %	<input type="checkbox"/> レポート %	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 100%		<input type="checkbox"/> その他 %
	基準等			教科書及び配布資料から出題し理解度を評価する。		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	福田 恵美子	人間発達学		中外医学社	2017	
参考文献	特に指定しない					
履修要件等	無し					
研究室	1号館5階 第16研究室		オフィスアワー	毎週水曜日 9:30~10:30		

科目No.	FBM13-1E, FBM04-1R		授業形態	講義	開講年次	1年次	
授業科目名	医学概論		担当教員	岡田 守弘			
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間	
	理学療法学	基礎医学、人体の構造と機能及び身体の発達		選択必修	1単位	前期(16h)	
	作業療法学			必修			
	言語聴覚学	基礎医学					
教員の実務経験と授業内容の関連	大学付属病院消化器内科・総合診療内科・麻酔科・救急集中治療部及び急性期総合病院内科・救急科での臨床経験のある教員が、医学概論について講義する。						
授業内容の要約	近年療法士はチーム医療の一員としての役割が増大し、他職種との連携がますます重要となっている。このため、専門領域のみならず幅広い医学知識が要求される。本講座では医療人として、チーム医療の一員として必要な医学的知識の習得を目指す。						
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療人としての倫理観をもって患者対応ができる 2. 医療の現状を理解し、チーム医療を実践できる 3. 本講座で学んだ医学的知識を専門科目の学習や臨床現場で応用することができる 						
授業形態 授業の進め方	講義形式で行い、間に質疑応答を行う。疾患を理解するうえで、解剖学、生理学の知識が必要である。これらの科目を併行して学習しておくことが望ましい。						
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上		
1. 医学の基本 医学の歴史 (教科書 pp3~30)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)				
2. 人体の機能と構造 環境・文化と人間の健康 (教科書 pp31~54)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)				
3. 病気の基本 病因・病態別の病気の分類 (教科書 pp55~86)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)				
4. 器官・領域別の病気の種類 病気の診断 (教科書 pp87~116)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)				
5. 病気の治療と予防 (教科書 pp116~130)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)				
6. 医療の基本 医療の現場 公衆衛生学 (教科書 pp131~204)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)				
7. 予防医療、社会の医療情勢と医療体制 医療法規と医療行政 (教科書 pp205~242)			復習 (板書内容を整理し、ノートにまとめる)				
8. 試験							
成績評価方法	項目	<input type="checkbox"/> 課題・小テスト	%	<input type="checkbox"/> レポート	%	■定期試験 80%	■その他 20%
	基準等					定期試験にて授業内容全般についての理解度を評価する。	授業中の質疑応答にて理解度を評価する。遅刻、無断退室、講義中の私語・スマートフォンの使用等は減点の対象とする。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年		
	中島泉	医学概論		南江堂	2015		
参考文献	特に指定しない						
履修要件等	形態・機能学を履修しておくことが望ましい						
研究室	1号館5階 第15研究室		オフィスアワー	毎週月曜日 10:40~12:10			

科目No.	FCM04-1R,		授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	精神医学 (1年)		担当教員	鐘本 英輝		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	臨床医学、疾病の原因と治療		必修	1単位	後期(30h)
	作業療法学					
	言語聴覚学	臨床医学および歯科学				
教員の実務経験と授業内容の関連	大阪大学医学部附属病院、水間病院等で精神科医として勤務経験のある教員が、その経験を元に、臨床現場で一般的に必要な患者との精神的なフォローの考え方も含め講義する。					
授業内容の要約	リハビリテーションの現場も含め、医療現場では精神医学的な問題を抱える患者に対応することは避けられない。精神疾患の概要を学び、臨床現場で精神医学的な問題に適切に対応するための基礎能力を養成する。					
学修目標 到達目標	1. 各精神疾患の概要を説明することができる 2. 一人の医療者として患者に配慮した態度で治療に臨むことができる					
授業形態 授業の進め方	パワーポイントスライドを用いた講義を行う。毎回講義スライドをプリントとしても配布するが、理解を促すための補助的なものであるため、講義を通して適宜加筆・修正を心がけてほしい。基本的には代表的な疾患を各論的に学習することを主とする。適宜国家試験対策にも触れる。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 精神医学総論 1			基本的に指定教科書の内容に沿って講義を行うので、事前に該当箇所を読み、学習しておくこと。			
2. 精神医学総論 2						
3. 器質性精神障害						
4. 症状性精神障害・物質関連精神障害						
5. 統合失調症						
6. 気分障害						
7. 神経症性障害						
8. パーソナリティ障害						
9. 摂食・睡眠などの生理的障害						
10. 知的障害・発達障害						
11. リエゾン精神医学						
12. リハビリテーションと精神医学						
13. 精神医学に関連する司法・福祉						
14. ライフサイクルと精神医学						
定期試験						
15. 総括及びフィードバック (定期試験の解答・解説)						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 30%		□レポート %	■定期試験 70%	
	基準等	不定期に講義内容に関連する小テストを行う。			小テストと合わせ、6割以上の得点で合格とする。	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	上野武治	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 第4版		医学書院	2015	
参考文献	小林俊輔	実践 高次脳機能障害のみかた		中外医学社	2019	
履修要件等						
研究室	1号館1階 非常勤講師控室		オフィスアワー	授業終了後やメールでの質問を受け付ける。		

科目No.	FCM09-1R		授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	臨床心理学		担当教員	松尾 加代		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	臨床医学、疾病の原因と治療	必修	1単位	後期(30h)	
	作業療法学					
教員の実務経験と授業内容の関連						
授業内容の要約	臨床心理学の基礎知識を学ぶことで、こころの捉え方、治療対象者へのアプローチの多様性を知る。					
学修目標 到達目標	1 治療対象者の心理状態のアセスメントの基礎を学ぶ 2 治療対象者に対する心理的ケアの基本的な技法や考え方を学ぶ 3 医療人としての自己理解・他者理解を高める					
授業形態 授業の進め方	講義形式で行う。配布資料は重要箇所が空欄になっているので、学習者がその空欄を埋めることで資料を完成させる。毎講義後に、コミュニケーションペーパーを配布し、質問や意見の提出を求める。質問の回答および補足説明は、次の講義の最初に行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. イントロダクション：臨床心理学とは			授業内容の復習			
2. 異常心理学①：DSMとICD、精神疾患			〃			
3. 異常心理学②：発達の問題、パーソナリティの問題			〃			
4. 心理アセスメント①：面接法、観察法			〃			
5. 心理アセスメント②：検査法			〃			
6. 心理療法：基本概念			〃			
7. 個人への介入①：精神分析			〃			
8. 個人への介入②：クライエント中心療法			〃			
9. 個人への介入③：行動療法			〃			
10. 個人への介入④：認知行動療法			〃			
11. 人間関係への介入：家族療法、グループ療法			〃			
12. その他の心理療法：遊戯療法、芸術療法			〃			
13. 依存の理解と支援			〃			
14. 臨床心理の現場：医療、教育、福祉、司法、産業			〃			
定期試験						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の解説）						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 30%	□レポート %	■定期試験 70%	□その他 %	
	基準等	授業内課題を呈示する。		定期試験を実施する。授業の内容全般についての理解度を評価する。		
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
	特に指定しない					
参考文献						
履修要件等						
研究室	1号館4階 第4研究室		オフィスアワー			

科目No.	FCM10-1R, FCM11-1R		授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	一般臨床医学		担当教員	岡田 守弘		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	臨床医学、疾病の原因と治療	必修	1単位	後期(30h)	
	作業療法学					
	言語聴覚学	臨床医学および歯科学				
教員の実務経験と授業内容の関連	大学付属病院消化器内科・総合診療内科・麻酔科・救急集中治療部及び急性期総合病院内科・救急科での臨床経験のある教員が、一般臨床医学について講義する					
授業内容の要約	本学カリキュラムで比較的授業時間の多い内科学、精神医学、整形外科のほかにも、多くの疾患に精通しておくことは医療人にとって必須である。本講座では救急医学、皮膚科学、産婦人科学、泌尿器科学、眼科学、耳鼻咽喉科学、老年医学、基礎薬理学、基礎予防医学などについて、医療人として「これだけは知っておいてほしい」疾患を中心に解説する。					
学修目標 到達目標	1. PT, OT, ST にとって必要な医学知識・基礎的な予防医学を習得できる 2. 学んだ疾患の知識を臨床現場で応用することができる 3. 臨床現場で求められる基本的な薬理学を理解できる 4. 基礎的な救急医学を理解できる					
授業形態 授業の進め方	講義形式で行い、間に質疑応答を行う。疾患を理解するうえで、解剖学、生理学の知識が必要である。これらの科目を併行して学習しておくことが望ましい。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 概論			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
2. 救急医療(教科書 p1~11)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
3. 外科総論(教科書 p13~21)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
4. 脳神経外科総論(教科書 p23~30)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
5. 皮膚疾患①(教科書 p35~55)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
6. 皮膚疾患②(教科書 p35~55)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
7. 泌尿器科疾患①(教科書 p57~73)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
8. 泌尿器科疾患②(教科書 p57~73)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
9. 婦人科・産科疾患①(教科書 p75~92)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
10. 婦人科・産科疾患②(教科書 p75~92)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
11. 眼疾患(教科書 p97~103)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
12. 耳鼻咽喉科疾患①(教科書 p105~116)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
13. 耳鼻咽喉科疾患②(教科書 p105~116)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
14. 老年医学(教科書 p119~12)			復習(板書内容を整理し、ノートにまとめる)			
定期試験(期末レポート)						
15. 総括及びフィードバック(定期試験の解答・解説)						
成績評価方法	項目	<input type="checkbox"/> 課題・小テスト	<input type="checkbox"/> レポート	■定期試験 80%		■その他 20%
	基準等			定期試験にて授業内容全般についての理解度を評価する。		授業中の質疑応答にて理解度を評価する。遅刻、無断退室、講義中の私語・スマートフォンの使用等は減点の対象とする。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	椿原彰夫ら	PT・OT・STのための一般臨床医学 第3版		医歯薬出版社	2014	
参考文献	特に指定しない					

履修要件等	形態・機能学を履修しておくことが望ましい			
研究室	1号館5階 第15研究室	オフィスアワー	毎週月曜日 10:40~12:10	

科目No.	FHW01-1R		授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	リハビリテーション概論 (含地域リハビリテーション)		担当教員	酒井 桂太		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	保健医療福祉とリハビリの理念		必修	1単位	前期(16h)
	作業療法学					
	言語聴覚学					
教員の実務経験と授業内容の関連	リハビリテーション、特に医学的リハビリテーションの実務経験のある教員が指導にあたる。					
授業内容の要約	リハビリテーションの歴史、理念と社会的使命、地域におけるリハビリテーションの取り組みなど包括的な見地からリハビリテーションの考え方を学ぶ。さらにリハビリテーション領域の専門性と考え方、またチームアプローチの重要性を理解するなかでリハビリテーション・マインドを育む。					
学修目標 到達目標	1. リハビリテーションの理念、役割が理解できる 2. 疾病と障害の構造について理解できる 3. リハビリテーション過程や各専門職が理解できる					
授業形態 授業の進め方	指定テキストをもとに講義形式にて授業を行う。また、適宜参考資料を配布する。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 医療福祉現場でのリハビリテーションの役割(教科書 pp110-115) リハビリテーション、IL運動、ノーマライゼーションの概念(教科書 pp1-17)			PT・OT・STの役割について復習する リハビリテーションの理念について復習する			
2. 健康と疾病(教科書 pp19-21) 障害とは 国際障害分類、国際生活機能分類(教科書 pp21-26)			健康とは何かについて復習する ICDHとICFについて復習する			
3. 障害の心理と障害受容(教科書 pp37-38、47-48) 防衛機制(教科書 pp38-42)			障害の受容過程について復習する 各種の防衛機制について復習する			
4. リハビリテーション過程と諸段階(教科書 pp69-98)			リハビリテーションの分野と流れについて復習する			
5. インフォームドコンセント、医療安全システム、個人情報保護、EBM、NBM(教科書 pp99-109)			インフォームドコンセントについて復習する EBMとNBMについて復習する			
6. チームアプローチとクリニカルパス(教科書 pp117-128)			クリニカルパスについて復習する			
7. ADL、QOLの概念(1)(教科書 pp129-138)			ADLの評価法について復習する QOLについて復習する			
定期試験(期末レポート)						
8. 総括及びフィードバック(定期試験の解答・解説)						
成績評価方法	項目	<input type="checkbox"/> 課題・小テスト %	<input type="checkbox"/> レポート %	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 100%	<input type="checkbox"/> その他 %	
	基準等			筆記試験にて理解度を評価する		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	上好昭孝ほか	「医学生・コメディカルのための手引書リハビリテーション概論 第3版」		永井書店	2014	
参考文献	特になし					

履修要件等			
研究室	1号館1階 理学療法専攻長室	オフィスアワー	毎週月曜日 14:40~16:10

科目No.	FHW04-1R, FHW03-1R		授業形態	講義	開講年次	1年次	
授業科目名	社会保障制度		担当教員	野村 和樹			
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間	
	理学療法学	保健医療福祉とリハビリの理念	必修	1単位	前期(16h)		
	作業療法学 言語聴覚学						
教員の実務経験と 授業内容の関連							
授業内容の要約	今日の社会保障の理念をはじめ、その現状、法体系、社会保障をめぐる情勢などを概観し、社会保険、公的扶助、社会福祉、医療・公衆衛生の制度の概要および基礎的知識を習得する。また、今日問題となっている事例を取り上げ、実際の社会保障の施策を検証する。						
学修目標 到達目標	1. 社会保障の理念が理解できる 2. 日本の社会保障制度を大別でき、それぞれの現状が理解できる 3. 社会保障の各種制度についての法規やしきみ、具体的内容、運用等について説明できる						
授業形態 授業の進め方	講義形式で授業を進める。教科書は用いずレジュメを配布し授業を進めるので、A4版のファイルを用意すること。講義内で知識の整理を図るため小テストを実施						
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上		
1. 「社会保障」における社会保険			社会保険の役割を整理すること				
2. 「医療」に関わる保障Ⅰ 医療保障における医療保険の役割			医療保険の役割を整理すること				
3. 医療保険制度Ⅰ 日本における医療保険の制度と仕組み			医療保険制度をまとめること				
4. 介護保険制度Ⅰ 介護保険制度の制定			介護保険制度制定までの過程を整理すること				
5. 介護保険制度Ⅱ 介護保険制度の仕組み			介護保険制度をまとめること				
6. 雇用保険、労災保険、年金保険制度、			それぞれの社会保険制度をまとめること				
7. 公的扶助 生活保護制度Ⅰ 生活保護制度の理解			生活保護制度の運用について整理すること				
8. 貧困問題 児童の貧困の実情、貧困率、社会手当			児童の貧困問題についてまとめること				
定期試験(期末レポート)							
成績評価方法	項目	■課題・小テスト	%	□レポート	%	■定期試験 80%	■その他 20%
	基準等					全般に渡る範囲から理解度をはかる。	要点を整理したプリントを作成
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年		
	各項目に応じてレジュメを配布する						
参考文献	講義内で適宜紹介する						
履修要件等	社会福祉学 を合わせて受講されていることが望ましい						
研究室	1号館4階第1研究室		オフィスアワー	毎週月曜日 12:00~13:00			

科目No.	SBP01-1R		授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	理学療法学概論		担当教員	古井 透		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	基礎理学療法学		必修	1単位	前期 (30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	介護保険施行10年前から地方行政の理学療法士としての実務経験から、地域社会に認められるような専門職としてのアイデンティティを、誰にでも解りやすく伝えることができる。					
授業内容の要約	理学療法士を目標に入学したものの新入生の少なからずの諸君には、理学療法について部分的な知識しかなく、実感が乏しい状態が予想される。そこで、本講では理学療法を概説し、リハビリテーション・マインドや理学療法士の現実を伝えながら、今後4年間学修していく道程を示す。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> これから学修する科目が理学療法とどう関係するか理解できる。 理学療法と作業療法と言語療法の違いを説明ができ、理学療法の魅力を実感できる。 医療職としての覚悟を決め、セラピストになるための動機づけを強める。 					
授業形態 授業の進め方	次の授業の教科書範囲を予習し、解らない2つの項目について自分で調べ記入しておく、それ以外に適切な質問を2つ考え、所定の用紙に書き授業前に提出する。第1回目の授業を除き、毎回前回の授業内容に関する小テスト(20問程度の穴埋め問題)を行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 1990年地域で働いていたある理学療法士の仕事			理学療法の定義・技術・歴史 TEXT(p1-11)			
2. 演習(1)・・・立ち上がり動作 → グループワーク・発表			リハビリテーション・ICF (p11-22)			
3. リハビリテーション医療の流れと専門職種			法律・使命・倫理・対象領域 (p23-56)			
4. 医療保険と急性期・回復期・療養期病院			臨床的思考・クリニカルパス・仕事 (p57-94)			
5. 【特別講義】大学病院での理学療法			(p91-147)			
6. 理学療法士の職能			理学療法士の職能 (p95-104)			
7. 理学療法(士)教育 105-125			理学療法(士)教育(p105-125)			
8. 【特別講義】一般病院での理学療法			(p91-113, 148-163)			
9. 運動療法概論(神経系・小児理学療法含む)			シラバス・履修の手引き			
10. 運動器系理学療法概論(中枢神経障害二次障害を含む)			シラバス・履修の手引き			
11. 感染予防とリスク管理			感染予防 (p174-176)			
12. 理学療法士による研究活動について			理学療法研究(p137-153)			
13. 理学療法部門でのマネジメントについて			理学療法士と報酬(p155-169)			
14. 医療倫理と事故予防について			医療事故 (p169-174)			
定期試験(期末レポート)						
15. 総括及びフィードバック(定期試験の解答・解説)臨床実習			理学療法記録とまとめ方 (p64-68)			
成績評価方法	項目	<input checked="" type="checkbox"/> 課題・小テスト 30%	<input type="checkbox"/> レポート %	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 70%	<input type="checkbox"/> その他0%	
	基準等	2項目の調べと2つの疑問、前週確認テストの提出状態、到達度を、0・1・2点で評価する。		「～について述べよ」式のA3用紙への記述試験で、概念の理解、論旨の明確さ、専門用語の適切な使用を評価する。		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	庄本 康治 編	理学療法概論～課題・動画を使ってエッセンスを学びとる		羊土社	2017	
参考文献	浅香 満ほか	理学療法概論		中山書店	2017	
	矢口 拓宇	患者さんが見る見る元気になるリハビリ現場の会話術		秀和システム	2017	
履修要件等	自身の生活姿勢や学習態度を、最高学府に在籍するに相応しく変革させる覚悟を持って臨むこと。					

研究室	1号館5階 第20研究室	オフィスアワー	毎週火曜日 11:40~12:40
-----	--------------	---------	-------------------

科目No.	SBP02-1R		授業形態	講義	開講年次	1年次	
授業科目名	基礎運動学		担当教員	岡 健司			
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間	
	理学療法学	基礎理学療法学		必修	1単位	後期(15h)	
教員の実務経験と授業内容の関連	理学療法士として臨床経験のある教員がその経験を活かして障がいとの関係を含めた講義を行う。						
授業内容の要約	人間の身体運動のしくみを理解する運動学は、基礎理学療法学における柱の一つである。当科目では人間の姿勢・動作の特徴とその力学的背景、身体構造との関連について学ぶ						
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 単関節運動を成立させる骨関節構造と力学的背景を説明できる 2. 立ち上がり、歩行といった動作の基本を説明できる 						
授業形態 授業の進め方	講義形式で進める。基礎運動学実習と連動した授業とする。						
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上		
1. 上肢の運動学			教科書第2章、解剖学(上肢)の予習・復習				
2. 下肢の運動学			教科書第3章、解剖学(下肢)の予習・復習				
3. 体幹の運動学			教科書第4章、解剖学(体幹)の予習・復習				
4. 関節における凹凸の法則 / OKC(開放運動連鎖)とCKC(閉鎖運動連鎖)			参考文献と講義内容をもとに予習・復習				
5. 運動学習			教科書第7章の予習、講義の復習				
6. 立ち上がりの運動学			参考文献と講義内容をもとに予習・復習				
7. 歩行の運動学			教科書第6章の予習、これまでの講義の復習				
定期試験							
8. 総括及びフィードバック			講義の復習				
成績評価方法	項目	<input type="checkbox"/> 課題・小テスト	%	<input type="checkbox"/> レポート	%	<input type="checkbox"/> 定期試験 100%	<input type="checkbox"/> その他 %
	基準等					筆記試験で授業全般の内容について理解度を評価する。	
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年	
	中島雅美	『メディカル・イメージブック運動学』		医歯薬出版		2010	
参考文献	中村隆一 他	『基礎運動学第6版』		医歯薬出版		2007	
履修要件等	「運動学」を履修済みであることが望ましい。						
研究室	1号館4階 第2研究室		オフィスアワー				

科目No.	SBP03-1R		授業形態	実習	開講年次	1年次
授業科目名	基礎運動学実習		担当教員	小奈 武陸		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	基礎理学療法学		必修	1単位	後期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	臨床で新人教育・臨床実習指導者の経験をもとに、理学療法士が障害構造を知るうえで動作の基礎を養う。					
授業内容の要約	基礎運動学実習とは基礎運動学で学習した内容を自己の身体や他者の身体を扱うことで、知識を整理することで、人間の身体運動のしくみを理解する学問である。基礎運動学実習では、日常生活にあふれる自然科学を学びながら、視認的または動作解析装置などを用いて実際の動作を体得することを目的とする。					
学修目標 到達目標	1. 身近な環境や生活が自然科学であること認識できる 2. 自然科学を観察するために数学・物理学的視点の重要性を理解できる					
授業形態 授業の進め方	講義と実技を混ぜながら行うため、迅速に行動すること。					
授業計画				授業時間外に必要な学修	60分以上	
1. 運動を図で表す意味を考える				今回の復習		
2. 力学の基礎 I (運動を図で表す)				今回の復習		
3. 力学の基礎 II (支持面・支持基底面を図で表す)				今回の復習		
4. 力学の基礎 IV (テコの原理を図で表す)				今回の復習		
5. 力学の基礎 V (質量中心の演習; 支持基底面を図で表す)				今回の復習		
6. 力学の基礎 VI (仕事・エネルギーを考える)				今回の復習		
7. 力学の基礎 VII (運動量と力積を図で表す)				今回の復習		
8. 関節運動を経験し学習する。				今回の復習		
9. 運動連鎖を経験し学習する。				今回の復習		
10. 運動学習を経験し学習する。				今回の復習		
11. 上肢の運動学 (上肢運動のランドマークと ROM I)				解剖学の予習		
12. 上肢の運動学 (上肢運動のランドマークと ROM II)				解剖学の予習		
13. 下肢の運動学 (下肢運動のランドマークと ROM I)				解剖学の予習		
14. 下肢の運動学 (下肢運動のランドマークと ROM II)				解剖学の予習		
定期試験 (期末レポート)						
15. 総括及びフィードバック (定期試験の解答・解説)						
成績評価方法	項目	<input type="checkbox"/> 課題・小テスト %	<input checked="" type="checkbox"/> レポート 30 %	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 70 %	<input type="checkbox"/> その他 %	
	基準等	全授業内容のレポート提出				
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	特に指定しない					
参考文献	特に指定しない					
履修要件等						

研究室	1号館4階第3研究室	オフィスアワー	毎週月曜日 12:10~12:50
-----	------------	---------	-------------------

科目No.	SPE01-1R		授業形態	演習	開講年次	1年次
授業科目名	理学療法計測法		担当教員	肥田 光正		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	理学療法評価学		必修	1単位	後期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	病院での臨床経験のある教員が、その経験を生かして、理学療法に必須の計測実技に関する基本的な知識と手法、理学療法評価についての考え方について講義する。					
授業内容の要約	理学療法評価の一手段である検査・測定のうち、本講では、問診、バイタルサインや身体計測、関節可動域測定について、その意義・目的・方法・手順・結果の解釈・注意事項などを学習する。					
学修目標 到達目標	1. 使用器具の取り扱いに注意し、計測(測定)することができる。 2. 形態計測や関節可動域測定法の方法・手順・注意事項を理解し、健常者に対して正確に測定を実施できる。					
授業形態 授業の進め方	”講義と実技練習を行う。実技練習は複数名のグループワークの形式で実施する。また、授業の復習のため、授業開始前に小テストを実施する。学修した実技をプレゼンテーションする時間も適宜設ける。 授業では、骨指標を触察する。骨の名称と部位を復習しておくことが望ましい。”					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 計測法総論、医療面接			医療面接技法についてのまとめ			
2. 形態計測(1) 形態測定総論、姿勢の観察、身長・体重・BMI			姿勢の観察の復習			
3. 形態計測(2) 四肢長			四肢長の測定方法の復習			
4. 形態測定(3) 四肢周径			四肢周径の測定方法の復習			
5. バイタルサイン(血圧・脈拍)			血圧、脈拍測定の復習			
6. 関節可動域測定総論			関節可動域測定についてのまとめ			
7. 関節可動域測定(1) 股関節			股関節の可動域測定の復習			
8. 関節可動域測定(2) 膝関節、足関節			膝関節・足関節の可動域測定の復習			
9. 関節可動域測定(3) 足部、肩甲帯			足部・肩甲帯の可動域測定の復習			
10. 関節可動域測定(4) 肩関節			肩関節の可動域測定の復習			
11. 関節可動域測定(5) 肘関節、前腕			肘関節・前腕の可動域測定の復習			
12. 関節可動域測定(6) 手関節			手関節の可動域測定の復習			
13. 関節可動域測定(7) 頸部、体幹			頸部・体幹の可動域測定の復習			
14. 形態測定、関節可動域測定の総合復習						
定期試験(期末レポート)						
15. 総括及びフィードバック(定期試験の解答・解説)						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 35%	□レポート %	■定期試験 60%	■その他 5%	
	基準等	毎回の授業開始時には、小テストを実施する。また実技試験を実施する。		実習で学習した知識を中心に出题する。		授業態度やグループワーク参加の積極性を吟味する。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	潮見泰藏ほか	「リハビリテーション基礎評価学」		羊土社	2014	
参考文献	内山 靖	《標準理学療法学 専門分野》理学療法評価学		医学書院	2004	
履修要件等						

研究室	3号館2階 第27研究室	オフィスアワー	毎週月曜日 13:00 ~ 14:30
-----	--------------	---------	---------------------

科目No.	SPT04-1R		授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	運動療法学総論		担当教員	峰久 京子		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	理学療法治療学		必修	1単位	後期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	病院での臨床経験のある教員がその経験を活かして、運動療法の基本的な知識、理論、方法について指導する。					
授業内容の要約	運動療法の基本的な知識、理論、方法を学習し、「運動療法学実習」や障害別理学療法の基礎を構築する。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 各運動療法の対象となる障害を想起できる 各種運動療法の概論について説明できる 各運動療法の理論・方法について説明できる 					
授業形態 授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> 講義中心に授業を進める 本講義の受講に先立ち、解剖、運動、生理学の理解を深めておくことが望ましい 振り返りの確認テストや確認レポートを実施する場合がある。 					
授業計画			授業時間外に必要な学修		60分以上	
1. 運動療法とは、運動療法の禁忌						
2. 運動の効果、二次障害の予防、トレーニングの基礎理論			前回の復習			
3. 関節の機能と障害			前回の復習			
4. 関節可動域訓とは、維持を目的とした関節可動域訓練			前回の復習			
5. 改善を目的とした関節可動域訓練（伸張訓練）			前回の復習			
6. 筋力増強訓練とは、筋力を決定する因子、筋力増強のメカニズム			前回の復習			
7. 筋力に影響を及ぼす因子			前回の復習			
8. 筋力増強訓練の基本原則、各種方法論			前回の復習			
9. 筋力増強訓練の実際			前回の復習			
10. 筋持久力訓練			前回の復習			
11. 運動制御と運動学習			前回の復習			
12. 協調性訓練			前回の復習			
13. 全身調整訓練			前回の復習			
14. 全身持久力訓練			前回の復習			
定期試験（期末レポート）						
15. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 30%	□レポート %	■定期試験 70%	□その他 %	
	基準等	講義の理解を深めるため、確認テストを実施する		定期試験で講義全般の理解度を評価する		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	Carolyn Kisner ほか	最新運動療法大全 I 基礎編 第六版		GAIA BOOKS	2012	
参考文献	特に指定しない					
履修要件等	理解度に応じて、確認テストの回数を決める。					
研究室	1号館4階 第3研究室		オフィスアワー	毎週月曜日 12:10~12:50		

科目No.	SCP01-1R		授業形態	演習	開講年次	1年次
授業科目名	臨床ゼミ I		担当教員	古井透・中村美砂・肥田光正・中尾英俊		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	臨床実習		必修	1単位	前期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	臨床研究や臨床現場を知る専任教員が指導し、医療職として、大学人としての心構えを伝える。					
授業内容の要約	「自己表出し、人間関係を作る力」、「分類し、系統立てる力」を身につけるため、関連施設見学・バリアフリー展への参加、さらにボランティア活動で体験した内容を踏まえて考察し、発表する。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法士の職域、理学療法士と他職種との連携のあり方を説明することができる 2. 社会人及び理学療法士を志す学生としての基本的な振る舞いができる 3. コミュニケーション能力の向上を目指す 					
授業形態 授業の進め方	本科目はリハビリテーション・理学療法の現場に臨む準備のための科目であることを理解しておくこと。臨床実習に活かせるように、積極的にグループワークに参画し他者との意見交換や交流の重要性を学び、コミュニケーション能力の向上を目指す。					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上	
1. 新入生研修を通じて、学生間のつながりをつくる				自己紹介・コミュニケーションスキルの復習		
2. オリエンテーション、自己紹介				同級生の氏名を覚える		
3. 理学療法学専攻1年生の学年暦、目標				勉強の週間予定表の作成		
4. 集団活動(体育祭の準備等)を通じた学生間連携、 「バリアフリー2020」見学説明				体育祭、バリアフリー展の準備		
5. 演習:「バリアフリー2020」見学 ①				見学レポートの作成		
6. 演習:「バリアフリー2020」見学 ②						
7. 演習:集団活動(体育祭)を通じた学生間連携・チームワーク						
8. 演習:言葉遣い、身だしなみ、振舞い				演習の復習		
9. 発表課題の説明【手引き】、見学マナー				関連施設見学発表の準備		
10. 発表「関連施設見学」①						
11. 発表「関連施設見学」②				ボランティア活動の準備		
12. ボランティア活動の体験①						
13. ボランティア活動の体験②				学外で体験したことのまとめ		
14. バリアフリー展、関連施設見学、ボランティア活動総復習						
15. 総括及びフィードバック						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 30%	■レポート 20%	□定期試験 %	■その他 50%	
	基準等	各演習の達成度をあわせて50%とする。	バリアフリー展・関連施設見学・ボランティア活動に関するレポート課題		関連施設見学の見学態度を10%、関連施設見学のプレゼンを40%とする。	
	著者	タイトル		出版社	発行年	
教科書	特に指定しない					
参考文献	大阪河崎リハビリテーション大学	関連施設見学の手引き	大阪河崎リハビリテーション大学	2018		
履修要件等	この科目の単位を修得しないと、臨床見学実習の履修は認められない。					
研究室	各担当教員 研究室		オフィスアワー	各担当教員 オフィスアワー		

科目No.	SCP03-1R		授業形態	演習	開講年次	1年次
授業科目名	臨床実習指導 I (PT)		担当教員	古井 透 ・ 肥田 光正 ・ 中尾英俊		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	理学療法学	臨床実習		必修	1単位	後期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	臨床現場の経験をもつ専任教員が指導し、医療職として、臨床見学実習の心構えを伝える。					
授業内容の要約	専門教育を受ける前の段階で、保健、医療、福祉分野における実際の理学療法がどのように展開されているのか、病院や施設において見学・体験し、理学療法士の役割の理解を深めるのが臨床見学実習である。実習に参加するにあたり、注意事項を遵守し、臨床実習指導者のもとで患者や各種専門職の方々とのコミュニケーションをはかり、対象者との意志疎通の仕方、基本的態度を身につける視点を学ぶ。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床見学実習の全体像を把握し、意義・目的を理解する 2. 臨床見学実習に参加するための心構え・態度を身に付ける 3. 臨床見学実習に参加するために必要な基礎知識(解剖学・生理学・運動学)を補う。 					
授業形態 授業の進め方	講義・演習を主とする。演習はグループワークの形式で行い、適宜プレゼンテーションを行う。「知識の復習」では、毎回テストを行い、翌週に問題の解説レポートの提出が必須である。本科目は、臨床見学実習に参加するための重要不可欠な科目であることを理解しておくこと。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30分以上
1. 臨床実習指導 I オリエンテーション						
2. 臨床実習に必要な知識の復習 (骨・関節)				骨・関節領域の復習解説レポート作成		
3. 臨床実習に必要な知識の復習 (筋生理)				筋生理領域の復習解説レポート作成		
4. 臨床実習に必要な知識の復習 (筋の起始停止)				筋の起始停止の復習解説レポート作成		
5. 臨床実習に必要な知識の復習 (筋の神経支配)				筋の神経支配の復習解説レポート作成		
6. 臨床実習に必要な知識の復習 (中枢神経系)				中枢神経系の復習解説レポート作成		
7. 臨床実習に必要な知識の復習 (呼吸・循環)				呼吸・循環の復習解説レポート作成		
8. 臨床実習に必要な知識の復習 (講義 2・7 復習)						
9. 臨床実習に必要な知識の復習 (ICF)				ICF の復習		
10. 臨床見学実習について (実習の目的・位置づけ、実習までのタイムスケジュール)				メモ帳を持参		
11. 臨床見学実習について (実習中の基本的態度、課題や提出物)						
12. 臨床見学実習について (非常事態時の対応、実習中の責務、個人情報保護について)				学内担当教員への挨拶		
13. 臨床見学実習について (学生紹介書・実習前報告の書き方、挨拶電話のかけ方)				実習施設調査レポート作成、実習前報告についての担当教員からの指導		
14. 臨床見学実習について (身だしなみの確認)				挨拶電話のタイミング等につき担当教員指導		
15. 臨床見学実習について (実習直前ガイダンス、提出物の配布)				実習の手引きの再読		
16. 臨床見学実習 報告会 (実習後セミナー、礼状の書き方、実習報告会、実習ポートフォリオについて)				礼状作成、実習ポートフォリオ作成、レジюме・施設情報ファイリング、		
成績評価方法	項目	<input type="checkbox"/> 課題・小テスト 30%	<input type="checkbox"/> レポート 40 %	<input type="checkbox"/> 定期試験 %	<input type="checkbox"/> その他 30 %	
	基準等	実習に必要な解剖学・運動学などの復習課題の発表内容を吟味する。	実習に必要な書類を含むレポートの提出状況や内容を吟味する			出席状況や授業態度を総合的に吟味する。
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年

		「大阪河崎リハビリテーション大学理学療法専攻:実習の手引き」		
参考文献		適宜配布		
履修要件等	「臨床ゼミⅠ」の単位取得が前提			
研究室	各担当教員 研究室	オフィスアワー	各担当教員	オフィスアワー

科目No.	SCP06-1R		授業形態	実習	開講年次	1年次		
授業科目名	臨床見学実習 (PT)		担当教員	酒井 桂太・理学療法学専攻教員				
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間		
	理学療法学	臨床実習		必修	1単位	後期(45h)		
教員の実務経験と授業内容の関連	理学療法士として実務経験のある教員と実習指導者が指導にあたる。							
授業内容の要約	臨床現場の見学を通して、病院・施設における理学療法の役割について理解する。対象者の生活機能を認識する。 対象者やスタッフに信頼される行動・態度を体験する。							
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーションや理学療法の見識、社会における理学療法の必要性や役割・専門性について理解する。 2. 指導者の指導を受け、対象者の生活機能を、国際生活機能分類に準じてまとめる。まとめた内容を他者に説明できる。 3. 学内で学んだ一部の理学療法検査・測定等を通して、積極的に対象児・者との関わりを持てるようになる。 							
授業形態 授業の進め方	<p>実地体験学習。他者との関わり合いをもつことへの積極性が大切である。実習の手引きをよく確認すること。臨床実習ですので自ら学ぶ姿勢で実習に取り組んでいただきたい。なお、実習後セミナーである各グループの実習報告会にて実習の成果を発表し、積極的にディスカッションしていただきたい。</p>							
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分程度			
1週にわたり病院・施設で見学実習を行う。実習後にセミナーにて課題発表会を行う。				<p>毎日の実習体験をデイリーノートにまとめる。実習報告会用のレジメをA3用紙1枚にまとめる。不十分な基礎知識を自己学習する。</p>				
成績評価方法	項目	<input type="checkbox"/> 課題・小テスト	%	<input type="checkbox"/> レポート	%	<input type="checkbox"/> 定期試験	%	<input checked="" type="checkbox"/> その他 100%
	基準等	実習成績と実習報告セミナー、提出物等を総合して判定する。						
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年		
		「理学療法学専攻：臨床実習の手引き 第5版」						
参考文献	特に指定しない							
履修要件等	実習要件1) を満たしていること							
研究室	1号館1階 理学療法専攻長室		オフィスアワー	毎週月曜日 14:40~16:10				

科目No.	SBO01-1R		授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	作業療法学概論		担当教員	谷口 英治		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	作業療法学	基礎作業療法学		必修	1単位	前期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	臨床現場の実務経験を基に、作業療法の対象者に何を、何のために、どのような手段で行い、何を成果とするのかを説明する。作業療法と作業行為、そして作業療法の流れとアプローチ（評価・介入・成果）及び作業療法士とは何か、社会的役割とは何か、そして医療従事者としての態度について講義を行う。					
授業内容の要約	作業療法と作業療法士を取り巻く状況と歴史や法制度を概括しつつ、作業療法の基本的概念とその対象、作業療法の流れやアプローチの概要について学修する。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 早期より作業療法への理解に強い動機付けをもって積極的に学修に参画できる 2. 作業・作業療法・作業療法士の役割、目的を理解できる 3. 作業療法の過去、現在、未来を理解できる 4. 作業療法の関連法規を理解できる 5. 作業療法の対象と障害を理解できる 6. 作業療法の流れとアプローチを理解できる 7. 各障害領域別作業療法を理解できる 8. 対象者の立場にたった態度を身付けることができる 					
授業形態 授業の進め方	初年次の早期より積極的に作業療法の理解に取り組んでいけるように、各学修課題の事前学習・当日の授業への積極的な参加、課題レポート作成等に力を尽くしてもらいたい。グループ課題による討論とプレゼンテーションがあるので、日頃よりクラス仲間との交流を図り相互信頼関係を深めていただきたい。授業全般を通して学生の能動的な授業への参加と取り組みを期待する。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. オリエンテーション・作業療法の概要を知る (VTR) (講義)			VTR から作業療法とは、仕事内容をノートにまとめておくこと			
2. 作業療法とは (教科書：教と略す pp12～14)			日本の作業療法の定義、作業療法士の種々のアプローチをノートにまとめておくこと			
3. 作業療法における人と作業との関わり (教 pp15～20)			配布した資料や教科書を読み人と作業の関わりの意味を理解しノートにまとめておくこと			
4. 作業と作業療法の理解 (教 pp86)			<ul style="list-style-type: none"> ・講義 (配布した資料) から作業の本質的な意味をノートにまとめておくこと ・グループ課題からプレゼンテーションの準備をしておくこと 			
5. 治療手段としての「作業」の意味 (教 pp87～89) (学生発表 1)			配布した資料や教科書から対象者理解の視点である ICF と作業療法の評価、治療、指導、援助内容との対応を理解し、ノートに整理すること			
6. 障害とは・ICF と作業療法 (教 pp87)			<ul style="list-style-type: none"> ・配布した資料や教科書から障がいと生活機能との関係を理解し、ノートに整理しておくこと ・グループ課題からプレゼンテーションの準備をしておくこと 			

7. 作業療法の定義 (教 pp90～93) (発表 2)		・配布した資料や教科書から日本・日本作業療法士協会・諸外国の定義を理解し、ノートにまとめておくこと			
8. 作業療法の歴史 (教 pp22～33)		・作業療法の歴史から現在と未来のあり方を考えること ・グループ課題からプレゼンテーションの準備をしておくこと			
9. 作業療法の法・制度 (教 pp14,81,90) (発表 3)		配布した資料や教科書から作業療法士法の制約と発展を理解し、ノートにまとめておくこと			
10. 作業療法の流れ (実践過程と実施) (講義)		講義資料から作業療法の実施の流れを理解する ・グループ課題からプレゼンテーションの準備をしておくこと			
11. 作業療法の流れ (実践過程と実施) (講義) (発表 4)		講義資料から作業療法の実施の流れを理解し、評価 (情報収集、面接、観察、検査測定調査)・治療計画・実施・再評価の目的、手順、統合解釈等の意義を理解すること			
12. 各障害領域別作業療法の理解 1 (教 pp96～181)		・各領域 (身体・精神・発達・高齢期) の作業療法の特徴、流れと方法を理解する ・グループ課題からプレゼンテーションの準備をしておくこと			
13. 各障害領域別作業療法の理解 2 (教 pp96～194) (発表 5)		各領域 (身体・精神・発達・高齢期、および地域) の作業療法の特徴、流れと方法を理解する			
14. 作業療法部門の管理 (倫理、記録・報告、診療報酬) (教 pp290～310)		講義資料から作業療法士の職業倫理と部門管理に必須の記録・報告の意義を理解し、ノートにまとめておくこと			
定期試験 (期末レポート)					
15. 総括及びフィードバック (定期試験の解答・解説)		講義全体から理解不十分な項目や課題、内容を検証し、ノートに整理しまとめておくこと			
成績評価方法	項目	<input type="checkbox"/> 課題・小テスト %	<input type="checkbox"/> レポート %	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 100 %	<input type="checkbox"/> その他 %
	基準等	講義終了後に小テスト実施	グループ課題での記録資料とプレゼンテーションの資料	講義終了後に実施した小テストより出題	授業への参加と取り組み態度
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	長崎重信監修 里村恵子編集	「改訂第2版 作業療法学ゴールドマスターテキスト 作業療法学概論」		メジカルビュー社	2015
参考文献	二木・能登編集	標準作業療法学 作業療法学概論 第3版		医学書院	2016
	杉原素子 編	作業療法学全書第1巻 作業療法概論第3版		協同医書	2010
履修要件等	「ヒトは日々そのヒトに適した作業行為をして生活している」ことの意味を考えてください。				
研究室	1号館5階 第18研究室	オフィスアワー	毎週月曜日 16:20～17:00		

科目No.	SBO05-1R		授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	基礎運動学		担当教員	南 征吾		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	作業療法学	基礎作業療法学		必修	1単位	後期(16h)
教員の実務経験と授業内容の関連	身体障害のリハビリテーションセンター・専門病院にて作業療法士として実務経験がある。解剖学と力学の知識を基にして人体の運動学について講義や実技を通して教授する。					
授業内容の要約	身体障害分野の作業療法に必要な身体運動の基礎を学ぶ。					
学修目標 到達目標	1. 身体運動の基礎を深めることができることを目指す 2. 作業療法に必要な身体運動機能の分析力を身につけることを目指す					
授業形態 授業の進め方	身体運動を捉えて作業療法の実践に関する根拠となる、身体構造を学んでいく。 日常生活から身体の運動の視点をもっておくこと。また、各関節について、整理/理解力を促進するために学生同士でグループワークを取り入れる。					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上	
1. オリエンテーション、股関節（骨と関節構造）				復習：股関節の関節構造を理解する		
2. 股関節（筋と関節の相互作用、触診）				復習：股関節の筋と関節の相互作用を理解する		
3. 膝関節（骨と関節構造）				復習：膝関節の関節構造を理解する		
4. 膝関節（筋と関節の相互作用、触診）				復習：膝関節の筋と関節の相互作用を理解する		
5. 足関節（骨と関節構造）				復習：足関節の関節構造を理解する		
6. 足関節（筋と関節の相互作用、触診）				復習：足関節の筋と関節の相互作用を理解する		
7. 歩行（歩行分析）				復習：歩行分析に必要な用語を整理する		
定期試験（期末レポート）						
8. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 10%	■レポート 20%	■定期試験 60%	■その他 10%	
	基準等	各授業に関する課題があり、その取り組む姿勢や提出物の内容を評価する。	各授業に関するレポートがあり、提出物の内容を評価する。	定期試験は筆記試験で実施する。	授業への参加度、定期試験の受験資格を失わない出席が必要である。	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	島田智明（翻訳）	筋骨格系のキネシオロジー		医歯薬出版	2019	
参考文献	塩田悦仁（翻訳）	カラー版カパンジー機能解剖学		医歯薬出版		
履修要件等						
研究室	1号館1階 非常勤講師控室		オフィスアワー	毎週火曜日 12:10~13:00		

科目No.	SBO05-1R		授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	基礎作業学		担当教員	武井 麻喜		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	作業療法学	基礎作業療法学		必修	1単位	前期(16h)
教員の実務経験と授業内容の関連	病院での臨床経験のある教員が、その経験を活かして、作業についての基本的な考え方を講義する					
授業内容の要約	作業療法の基礎になる作業についての知識を身につける。作業療法評価学、治療学や臨床実習に繋がる基礎となる科目である。作業の持つ意味、作業が人に与える影響(身体的・心理的)などについて考えていく。					
学修目標 到達目標	1. 作業の定義が説明できる 2. 作業の分類ができる 3. 人と作業の関係を理解し説明ができる 4. 作業分析の概要を理解し説明ができる					
授業形態 授業の進め方	講義の後、テーマに基づいてグループ討論、発表を行う。 積極的なグループ討論をするように。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30分以上
1. 基礎作業学とは、作業とは				復習:グループ討論の内容を自分なりにまとめること		
2. 作業療法における作業の分類				復習:グループ討論の内容を自分なりにまとめること		
3. 作業療法における作業の特徴				復習:グループ討論の内容を自分なりにまとめること		
4. 作業と生活(作業バランス)				復習:グループ討論の内容を自分なりにまとめること		
5. 作業と生活(ひとの生活様式)				復習:グループ討論の内容を自分なりにまとめること		
6. 作業と道具				復習:グループ討論の内容を自分なりにまとめること		
7. 作業分析(想定課題)				復習:グループ討論の内容を自分なりにまとめること		
定期試験(期末レポート)						
8. 総括及びフィードバック(定期試験の解答・解説)						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 40%	□レポート %	■定期試験 60%	□その他 %	
	基準等	毎回グループ討論後のまとめを課題として評価する。		定期試験を実施する。授業内容全般についての理解度を評価する。		
		著者	タイトル		出版社	発行年
教科書		特に指定しない				
参考文献		小林夏子・福田恵美子 編	「標準作業療法学 専門分野 基礎作業学第2版」		医学書院	2012

	山根寛	「ひとと作業・作業活動 新版」	三輪書店	2017
履修要件等	「作業療法学概論」を履修していることが望ましい。			
研究室	1号館1階 第23研究室	オフィスアワー	毎週月曜日 12:10~13:00	

科目No.	SBO06-1R		授業形態	演習	開講年次	1年次
授業科目名	基礎作業分析学実習		担当教員	嶋野 広一・水野 貴子・大類 淳矢		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	作業療法学	基礎作業療法学		必修	1単位	後期(45h)
教員の実務経験と授業内容の関連						
授業内容の要約	作業療法で用いる代表的な作業種目について、その工程や手段を学び、具体的に説明できる。実習の中で、作業に必要とされる道具・材料について学び、作業の持つ特性や人の心にも与える影響を考察する。					
学修目標 到達目標	1. 具体的に作業活動(手工芸)の工程・手順を実習することで、種目ごとの特徴を説明できる 2. 道具・材料・工程について理解し、分析することができる					
授業形態 授業の進め方	実習形式なので汚れてもよい服装にて参加し、授業の邪魔になる行為があれば出席を認めない。基礎作業学を十分に理解しておくこと。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 陶芸：基本的工程・土練り・たたら作り(嶋野)			復習：陶芸でのレポート作成			
2. 陶芸：たたら作り・玉作り(嶋野)			復習：陶芸でのレポート作成			
3. 陶芸：施釉(嶋野)			復習：陶芸でのレポート作成			
4. 陶芸：施釉(嶋野)			復習：陶芸でのレポート作成			
5. タイルモザイク：コースター1(水野)			復習：タイルモザイクについてのレポート作成			
6. タイルモザイク：コースター2(水野)			復習：タイルモザイクについてのレポート作成			
7. 木工：基本工程・設計・採寸・切断(嶋野)			復習：木工についてのレポート作成			
8. 木工：組み立て・仕上げ(嶋野)			復習：木工についてのレポート作成			
9. ボンボンマスコット：ストラップ人形1(水野)			復習：ボンボンマスコットについてのレポート作成			
10. ボンボンマスコット：ストラップ人形2(水野)			復習：ボンボンマスコットについてのレポート作成			
11. スプールウェビング：ミニマフラー1(嶋野)			復習：スプールウェビングについてのレポート作成			
12. スプールウェビング：ミニマフラー2(嶋野)			復習：スプールウェビングについてのレポート作成			
13. 裁縫：お手玉1(水野)			復習：裁縫についてのレポート作成			
14. 裁縫：お手玉2(水野)			復習：裁縫についてのレポート作成			
15. マクラメ：ミサンガ1(嶋野)			復習：マクラメについてのレポート作成			
16. マクラメ：ミサンガ2(嶋野)			復習：マクラメ折り紙についてのレポート作成			
17. ビーズ細工：コースター1(水野)			復習：ビーズ細工についてのレポート作成			
18. ビーズ細工：コースター2(水野)			復習：ビーズ細工についてのレポート作成			
19. 張り子(嶋野)：お面作り			復習：張り子についてのレポート作成			
20. 折り紙：くす玉など(嶋野)			復習：折り紙についてのレポート作成			
21. 卓球：ルールの理解等(嶋野)			復習：卓球についてのレポート作成			
22. トランプ(嶋野)			復習：トランプについてのレポート作成			
定期試験(期末レポート)						
23. 総括及びフィードバック(定期試験の解答・解説)						
成績評価方法	項目	□課題・小テスト %	■レポート 80%	■定期試験		■その他 20%
	基準等	種目ごとにレポートを課す。		授業内容全般についての理解度を評価する。		完成した作品を評価しする。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	

	特になし	特になし	特になし	特になし
参考文献	浅沼辰志	「作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト2 作業学 改訂第2版」	メジカルビュー社	2015
履修要件等	基礎作業学を履修していることが望ましい。			
研究室	鳴野：1号館2階 第24研究室 水野：1号館4階 第5研究室	オフィスアワー		

科目No.	SOE01-1R		授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	作業療法評価学		担当教員	武井 麻喜・嶋野 広一・水野 貴子		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	作業療法学	作業療法評価学		必修	1単位	後期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	病院での臨床経験のある教員が、その経験を生かして、評価の考え方についての講義と、身体機能の代表的な検査・測定 of 知識と技法について指導する。					
授業内容の要約	人が作業する際に用いる身体機能を適切に評価することが作業療法のスタートとなる。講義では作業療法評価の基本的な考え方・枠組みを学習する。加えて健常人の生理機能の測定、形態学的測定、おもな関節の関節可動域測定を主に身体機能の基礎評価の技法についても学習する。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 身体機能系の評価の定義と流れや目的・意義を理解し説明ができる 2. 評価計画の立案や統合と解釈について理解し説明ができる 3. 代表的な作業療法の評価の目的・手段を述べるができる 4. 臨床見学実習で対象者と接する前段階において実習生としての知識・技術・態度を習得する 					
授業形態 授業の進め方	前半は、パワーポイントを使用した講義、グループ討論を実施する。後半は学生同士がペアになって実技を実施し、各評価技法の授業終了時(11回目、13回目、14回目)には実技の確認テストを実施する。実技は肩や肘が出せるようなシャツ、膝が出せるような下衣(ジーンズ・スカート不可)で参加のこと。各自配布された検査器具を必要に応じて持参すること。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. ガイダンス、評価とは(目的)【講義/武井】<教科書 pp3~8>			復習: グループ討論の内容を自分なりにまとめること			
2. 作業療法と評価(評価項目・ICF)【講義/武井】<教科書 pp9~10>			復習: グループ討論の内容を自分なりにまとめること			
3. 作業療法と評価(評価計画、評価の手順と手段)【講義/武井】<教科書 pp15~17>			復習: グループ討論の内容を自分なりにまとめること			
4. 作業療法と評価(統合と解釈)【講義/武井】<教科書 pp19>			復習: グループ討論の内容を自分なりにまとめること			
5. 作業療法と評価(課題の抽出、治療目標)【講義/武井】<教科書 pp19~20>			復習: グループ討論の内容を自分なりにまとめること			
6. 記録・報告の意義と特徴【講義/武井】<教科書 pp28~32>			復習: 配布資料を元に内容を自分なりにまとめること			
7. 中間テスト(座学テスト)						
8. 関節可動域測定 1(上肢)【実技/武井・嶋野・水野】<教科書 pp72~82、pp89>			予習: 教科書 pp72~82 を予め読んでおくこと 復習: 実技の復習をすること			
9. 関節可動域測定 2(上肢・手指・下肢)【実技/武井・嶋野・水野】<教科書 pp83~84、pp90-92>			予習: 教科書 pp83~84 を予め読んでおくこと 復習: 実技の復習をすること			
10. 関節可動域測定 3(下肢・頸部)【実技/武井・嶋野・水野】<教科書 pp85~86、pp93~94>			予習: 教科書 pp85~86 を予め読んでおくこと 復習: 実技の復習をすること			
11. 関節可動域測定(頸部・体幹)【実技/武井・嶋野・水野】<教科書 pp87> 試験概要説明			予習: 教科書 pp87 を予め読んでおくこと 復習: 実技の復習をすること			

12. 形態計測 1 (上下肢長)・握力測定・ピンチ力測定【実技/武井・嶋野・水野】<教科書 pp65～71>		復習：配布資料を元に実技の復習をすること			
13. 形態計測 2 (上下肢周径)【実技/武井・嶋野・水野】<教科書 pp65～71>		復習：配布資料を元に実技の復習をすること			
14. バイタルチェック【実技/武井・嶋野・水野】<教科書 pp56～58>		復習：配布資料を元に実技の復習をすること			
定期試験 (実技試験)					
15. 総括及びフィードバック (実技試験の解説)					
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 20 %	□レポート %	■定期試験 50 %	■その他 30 %
	基準等	前半座学ではグループ討論後のまとめを課題として評価する。		後半実技実習分を定期試験として実技試験を実施する。	第7回目に中間テストを実施し、座学の内容についての理解度を評価する。 前半の座学、後半の実技実習を総合的に評価する。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	岩崎テル子他	「標準作業療法学専門分野 作業療法評価学 第3版」		医学書院	2017
参考文献	佐竹勝 編	「ゴールド・マスター・テキスト 3 作業療法評価学 改訂第2版」		メジカルビュー社	2015
履修要件等	「作業療法学概論」「解剖学」「生理学」が履修済であることが望ましい。				
研究室	1号館1階 第23研究室 (武井) 1号館2階 第24研究室 (嶋野) 1号館4階 第5研究室 (水野)	オフィスアワー		月曜日 12:10～13:00 (武井) 水曜日 10:40～12:10 (嶋野) 水曜日 12:10～12:50 (水野)	

科目No.	SCP01-1R		授業形態	演習	開講年次	1年次
授業科目名	臨床ゼミ I (OT)		担当教員	武井 麻喜・水野 貴子		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	作業療法学	臨床実習		必修	1単位	前期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連						
授業内容の要約	リハビリテーションの社会的意義を踏まえ、医療人を目指す心構えなどを学ぶ。また、臨床現場に関わる上で必要な視点を理解する。					
学修目標 到達目標	1. 社会性のある態度を身につけることができる 2. 自分の考えを相手に伝えることができる 3. 作業療法に興味を持つことができる 4. 専門基礎の知識を身につけることができる					
授業形態 授業の進め方	講義、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッションなどを行う。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30分以上
1. オリエンテーション、大学生としてもモラル、自己紹介				大学生として規範を備える		
2. 集団活動(体育祭の準備等)を通じた学生間連携				クラス内で交流を深めておく		
3. 集団活動(体育祭)を通じた学生間連携・チームワーク①				体調管理に気を付けておく		
4. 集団活動(体育祭)を通じた学生間連携・チームワーク②				体調管理に気を付けておく		
5. 専門基礎の知識を身につける(解剖学中間テスト対策)				解剖学の授業の復習をしておく		
6. 専門基礎の知識を身につける(生理学中間テスト対策)				生理学の授業の復習をしておく		
7. グループワーク①(他者を知る)				グループワークの実践		
8. グループワーク②(相手に伝える)				グループワークの実践		
9. グループワーク③(OTとは;調べる、まとめる)				OTについて調べてたことをまとめる		
10. グループワーク④(OTとは;発表)				9回目にまとめたことを見直しておく		
11. グループワーク⑤(OTとは;テスト)				9、10回目の授業の復習をしておく		
12. グループワーク⑥(作業活動体験)				体験した活動を復習する		
13. 専門基礎の知識を身につける(解剖学定期試験対策)				解剖学の授業の復習をしておく		
14. 専門基礎の知識を身につける(生理学定期試験対策)				生理学の授業の復習をしておく		
15. 総括及びフィードバック(全講義の振り返り)						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 60 %	■レポート 20 %	□定期試験 %	■その他 20 %	
	基準等	・11回目にテストを実施し、9、10回目の内容の理解度を評価する ・13、14回目にテストを実施し、授業内容の理解度を評価する	9回目の内容をグループでまとめ提出する。その内容を評価する		授業態度及びグループワークの貢献度を評価する	
教科書	著者	タイトル		出版社		発行年
		随時資料を配布				
参考文献						
履修要件等	この科目の単位を修得しないと、臨床見学実習の履修は認められない。					
研究室	1号館1階 第23研究室(武井) 1号館4階 第5研究室(水野)		オフィスアワー	月曜日 12:10~13:00(武井) 水曜日 12:10~12:50(水野)		

科目No.	SCP03-1R		授業形態	演習	開講年次	1年次
授業科目名	臨床実習指導 I (OT)		担当教員	武井 麻喜・水野 貴子		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	作業療法学	臨床実習		必修	1単位	後期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	病院での臨床経験のある教員が、その経験を活かして、見学実習へ向けての基本的な知識と手法、対象者への対応を指導する。					
授業内容の要約	臨床見学実習での学修効果を得るために、臨床現場の状況を捉える視点や作業療法士として求められる基本的な態度や心構えを学ぶ。					
学修目標 到達目標	1. 臨床実習の全体像を理解することができる 2. 臨床見学実習への心構えや態度を理解することができる 3. 臨床での作業療法に興味を持つことができる					
授業形態 授業の進め方	講義、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッションなどを行う。					
授業計画				授業時間外に必要な学修		30分以上
1. 臨床実習の対するオリエンテーション						
2. 障がい者体験①(福祉用具、車いす)				障がいについて、福祉用具、車いすについて調べておく		
3. 障がい者体験②(片麻痺の生活)						
4. 臨床実習①実習中の基本的態度・身だしなみ				実習の手引きの該当項目を熟読しておく		
5. 臨床実習②欠席・遅刻・早退、事情事態時の対応				実習の手引きの該当項目を熟読しておく		
6. 臨床実習③人間関係に関すること、実習中の責務				実習の手引きの該当項目を熟読しておく		
7. 臨床実習④個人情報の保護、健康管理				実習の手引きの該当項目を熟読しておく		
8. 臨床見学実習①実習の目標、評価表				実習の手引きの該当項目を熟読しておく		
9. 臨床見学実習②実習の課題と提出物				実習の手引きの該当項目を熟読しておく		
10. 臨床見学実習③実習中の見学・観察のポイント				各領域の評価学の授業を復習しておく		
11. 臨床見学実習④デイリーノートの書き方、実習ノートの書き方				実習の手引きの該当項目を熟読しておく		
12. 臨床見学実習⑤報告会用レジュメの書き方				実習の手引きの該当項目を熟読しておく		
13. 臨床見学実習前事前準備① 学生紹介書、誓約書、通勤経路報告				実習の手引きの該当項目を熟読しておく		
14. 臨床見学実習前事前準備② 挨拶電話のかけ方、礼状の書き方、評価表、経験記録への記述				実習の手引きの該当項目を熟読しておく		
15. 総括及びフィードバック(全講義の振り返り)						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 50%	□レポート %	□定期試験 %	■その他 50%	
	基準等	期限内の実習関連書類提出、必要事項の記載がなされているかを評価する				授業に取り組む姿勢を評価する
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
		大阪河崎リハビリテーション大学 作業療法学専攻；実習の手引き第5版			2017	
参考文献			随時参考資料を配布			
履修要件等	この科目の単位を修得しないと、臨床見学実習の履修は認められない。					
研究室	1号館1階 第23研究室(武井) 1号館4階 第5研究室(水野)		オフィスアワー	月曜日 12:10~13:00(武井) 水曜日 12:10~12:50(水野)		

科目No.	SCP06-1R		授業形態	実習	開講年次	1年次
授業科目名	臨床見学実習 (OT)		担当教員	谷口 英治 / 作業療法学専攻教員		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	作業療法学	臨床実習		必修	1単位	後期(45h)
教員の実務経験と授業内容の関連	臨床現場の実務経験を基に医療・保健・福祉機関で働く作業療法士の役割・分担、対象者・児へのリハビリテーションサービス(評価・介入・援助)、他の関連職種との連携と社会資源の活用、個人情報保護の配慮、などを診療チームの一員として自覚を促すように解説すると共に、臨床見学体験を通して学内での学習意欲への動機づけを指導する。					
授業内容の要約	身体障害分野、精神障害分野、発達障害分野、高齢期障害分野から1分野を見学する。臨床実習施設の概要、対象疾患、作業療法の実践内容を見聞、体験すると共に対象者(児)やスタッフへの対応を経験し、2年次への学修につなげる。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 作業療法と作業療法士の果たす役割について理解できる 2. 臨床体験を通して学修意欲(動機づけ)や作業療法に対する興味・関心を高めることができる 3. 対象者(児)やスタッフに対して責任感のある行動・態度を身につけることができる 4. 臨床実習施設の組織や作業療法部門の運営・管理の概要について理解を深めることができる 					
授業形態 授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床実習にふさわしい服装で臨むこと。 ・臨床実習に準じたマナーや社会性が求められるため医療従事者として責任感のある行動・態度に配慮すること。 					
授業計画				授業時間外に必要な学修		60分以上
身体障害分野、精神障害分野、発達障害分野、高齢期障害分野から1分野の施設で1週間の臨床見学実習を実施する				臨床見学実習施設の概要・方針をホームページ等で調べ、医療従事者の役割を知るため事前準備をしておくこと。臨床実習指導Iでの学び、及び資料「実習の手引き」等を介して自らの実習目的・目標をもつこと。		
成績評価方法	項目	□課題・小テスト	%	□レポート	%	□定期試験 %
	基準等					■その他 100 %
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年
	臨床実習委員会編	「作業療法学専攻：実習の手引き」 第4版			大阪河崎リハビリテーション大学	2017
参考文献	必要に応じて紹介する					

履修要件等	実習要件 1) を満たしていること			
研究室	各実習担当教員研究室	オフィスアワー	各実習担当教員 オフィスアワー参照	

科目No.	FPS01-1R		授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	学習・認知心理学		担当教員	伊藤 一美		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	心理学		必修	2単位	後期(45h)
教員の実務経験と授業内容の関連						
授業内容の要約	<p>【学習心理学】私たちの行動は、そのほとんどが過去の経験を通して学習されたものである。その学習がどのように形成されており、どのように私たちの日常生活に影響しているのかを学ぶ。</p> <p>【認知心理学】認知心理学とは何か？ 認知というのは、英語の <i>cognitive</i>, <i>cognition</i> の訳で、認知心理学は、人間の心 (mind) を「認知系」の代表として捉え、そのふるまいや働きを広い意味での情報処理的モデルを用いて、明らかにしようという立場をとる心理学である。ここでは、人の行動や心を理解する心理学を学ぶ。</p>					
学修目標 到達目標	<p>【学習心理学】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学習とは何かを理解する 2. 学習のメカニズムを知り、行動を分析的に捉える 3. 人間の「こころ」を学習心理学の立場から考える 			<p>【認知心理学】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 認知心理学の視点を理解する 2. 各テーマの内容を理解する 		
授業形態 授業の進め方	<p>授業はテキストと配布資料を使用し、演習と講義を含めて行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業前に必ずテキストを読み、分からない用語は事項索引や辞書を使用して、調べておくこと。 ・授業後には、配布資料を使用し、復習すること 					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上	
【学習心理学】						
1. 学習とは何か 学習の定義について学び、初期学習の重要性を理解する				教科書を読んで予習・復習をすること		
2. レスポンデント条件付け 古典的条件付けについて学ぶ				教科書を読んで予習・復習をすること		
3. オペラント条件付け 道具的条件付けについて学ぶ				教科書を読んで予習・復習をすること		
4. 試行錯誤、洞察学習、般化と弁別 様々な学習の型について学ぶ				教科書を読んで予習・復習をすること		
5. 強化スケジュール オペラント条件付けにおける教科のしくみを理解する				教科書を読んで予習・復習をすること		
6. 高次条件付けと学習曲線 高次条件付けと学習の進行過程について学ぶ				教科書を読んで予習・復習をすること		
7. 学習の転移 学習の転移について学び、実習を通して理解する				教科書を読んで予習・復習をすること		
8. 学習心理学 総括				教科書を読んで予習・復習をすること		
【認知心理学】						
9. オリエンテーション 認知心理学の歴史的背景を学ぶ				教科書を読んで予習・復習をすること		
10. 知覚のメカニズム 知覚のメカニズムのうち、とくに視覚のしくみについて学ぶ				教科書を読んで予習・復習をすること		
11. 記憶のメカニズム (1) 記憶の過程 (符号化・貯蔵・検索) について学ぶ				教科書を読んで予習・復習をすること		
12. 記憶のメカニズム (2) 記憶の貯蔵・検索過程について二重貯蔵モデルを中心に学ぶ				教科書を読んで予習・復習をすること		
13. 記憶のメカニズム (3) 記憶障害について学ぶ				教科書を読んで予習・復習をすること		
14. 概念と言語 概念の構造を説明する理論について学ぶ				教科書を読んで予習・復習をすること		
15. 知識と表象 知識の表象を説明する理論について学ぶ				教科書を読んで予習・復習をすること		
16. イメージと空間の情報処理 言語以外の情報である空間の情報処理過程について学ぶ				教科書を読んで予習・復習をすること		
17. 注意と認知の制御過程 認知の制御過程である注意の機能やメタ認知について学ぶ				教科書を読んで予習・復習をすること		
18. 文章の理解 文章の理解過程について学ぶ				教科書を読んで予習・復習をすること		
19. 文章の記憶 文章の記憶のしくみについて学ぶ				教科書を読んで予習・復習をすること		
20. 思考のメカニズム —推論— 推論のメカニズムについて学ぶ				教科書を読んで予習・復習をすること		
21. 思考のメカニズム —問題解決— 問題解決の過程について学ぶ				教科書を読んで予習・復習をすること		
22. 思考のメカニズム —意思決定— 意思決定の過程について学ぶ				教科書を読んで予習・復習をすること		
定期試験 (期末レポート)						
23. 総括及びフィードバック (定期試験の解答・解説)				教科書を読んで予習・復習をすること		

成績評価方法	項目	■課題・小テスト 10%	□レポート %	■定期試験 80%	■その他 10%
	基準等	課題・小テストで評価する。		定期試験にて、授業の理解度を評価する	授業への参加度や受講態度等で評価する。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	山内光哉ほか	「グラフィック学習心理学」		サイエンス社	2001
	森敏昭ほか	「グラフィック認知心理学」		サイエンス社	1995
参考文献	高野陽太郎(編)	「認知心理学 2 記憶」		東京大学出版会	1995
	太田信夫(編)	「記憶の心理学と現代社会」		有斐閣	2006
履修要件等	特になし				
研究室	1号館1階 非常勤講師控室		オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。	

科目No.	FSL01-1R		授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	音声学		担当教員	新田 香織		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	音声言語聴覚医学		必修	2単位	後期(60h)
教員の実務経験と授業内容の関連						
授業内容の要約	言語聴覚士として患者への適切な対応ができるように、子音・母音の発音の仕方を徹底的に解説する。発音時に起こる様々な現象にも言及する。実際の音声をどのような音声記号で表すかを徹底して習得させる。国家試験過去問で問題の意味や答え方のポイントなどを詳しく解説する。					
学修目標 到達目標	1. 英語・日本語の子音・母音の理解と実践ができる 2. 英語・日本語の単語の音声記号記述ができる 3. モーラと音節の区別、アクセントとイントネーションの区別ができる					
授業形態 授業の進め方	理論と実践を組み合わせ、理解を深めるような工夫をする。毎回の復習小テスト実施、教員の解説の前に予習部分のグループワーク(ディスカッション)による確認、学生自身による説明(プレゼンテーション)などを通して、理解を促進する。受動型でなく、積極的な関わりを求める。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		60分以上	
1. 音声学とは? 第1章 pp.7~16			予習:プリント			
2. 英語の子音(1) 第2章 pp.25~51			復習:破裂音・摩擦音			
3. 英語の子音(2) 第2章 pp.53~72			予習:プリント			
4. 英語の母音(1) p.210			復習:破裂音、側音、鼻音、半母音、母音、			
5. 英語の母音(2) p.210			予習:プリント			
6. 音素と単音(異音)、最小対立 第11章 pp.157~162			復習:英語の子音、母音			
7. 音の連鎖・脱落・同化			予習:プリント			
8. 日本語の子音(1) 第2章 pp.86~94			復習:ひらがなの音声記号			
9. 日本語の子音(2)・母音 第2章 pp.86~96			予習:プリント			
10. 日本語音声記号での記述			復習:名詞のひらがなと音声記号			
11. 促音と長音 pp.84~103			予習:プリント			
12. モーラと撥音 pp.84~103			復習:50音と他のモーラ			
13. 清音と濁音			予習:プリント			
14. 復習セッション pp.7~103			復習:英語と日本語の音声の特徴と音声記号			
15. 中間テスト:録音			予習:プリント			
16. 中間テスト:筆記			復習:未修得部分の復習			
17. 前半のリフレクション			予習:プリント			
18. 第二次調音 pp.79~83			復習:音素と異音			
19. 音節とモーラ 第3章 pp.97~103			予習:プリント			
20. 相補分布・自由変異 第11章 pp.157~162			復習:異音の条件			
21. アクセントとイントネーション 第4章 pp.105~135			予習:プリント			
22. 鼻母音化、母音の無声化 p.94, p.83			復習:アクセント、イントネーション、鼻母音			
23. 日本語音素・異音復習、国家試験対策(1)			予習:プリント			
24. 国家試験対策(2)			復習:国家試験問題(1)(2)			
25. 国家試験対策(3)			予習:プリント			
26. 国家試験対策(4)			復習:国家試験問題(3)(4)			
27. 総復習 pp.7~162, p.210			予習:			
28. 記述式復習			復習:国家試験問題(1)(2)(3)(4)			
定期試験(期末レポート)						

29. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）(1)					
30. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）(2)					
成績評価方法	項目	■ 課題・小テスト 50 %	□ レポート %	■ 定期試験 40 %	■ その他 10 %
	基準等	毎回の予習チェック、毎回の小テスト、中間試験により理解度を確認。60%以上の正答率を求める。		記述式とマーク式を併用するものと、マーク式のみの2種類の期末試験となる。原則60%以上の正答率を求める。	ディスカッションや発表への参加度を考慮する。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年
	斎藤純男	「日本語音声学入門」		三省堂	2013
参考文献	町田健（編）	「日本語音声学のしくみ」		研究社	2012
履修要件等					
研究室	1号館1階 非常勤講師控室	オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。		

科目No.	SDS01-1R		授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	言語聴覚障害概論 I		担当教員	木村 秀生		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	障害学総論		必修	1単位	前期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	言語聴覚士として臨床経験のある教員が、その経験を生かして言語聴覚障害の概論を講義する。					
授業内容の要約	言語聴覚障害の概略と言語聴覚士の職務内容、社会的責任を理解する。					
学修目標 到達目標	1. 人間のコミュニケーションの特質が理解できる。 2. 言語聴覚障害学に関する基礎的理解ができる。 3. 医療従事者としての基本的態度を身につける。					
授業形態 授業の進め方	座学の他に一部実技も実施する。アクティブラーニングを通じてテーマに対する積極的な意見交換や意欲的・自主的な学習態度を養う。					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上	
1. 話せない・聞こえない・食べられないとは？(教科書 p34 ~ 48)				講義内容を復習しノートにまとめる。		
2. 言語聴覚士とは何か(教科書 p2 ~ 19)				講義内容を復習しノートにまとめる。		
3. 言語聴覚障害学の歴史(教科書 p2 ~ 19)				講義内容を復習しノートにまとめる。		
4. 言語とコミュニケーションについて(教科書 p22 ~ 33)				講義内容を復習しノートにまとめる。		
5. なぜ声が出るのか(教科書 p34 ~ 48)				講義内容を復習しノートにまとめる。		
6. なぜ聞こえるのか(教科書 p34 ~ 48)				講義内容を復習しノートにまとめる。		
7. なぜ食べられるのか(教科書 p34 ~ 48)				講義内容を復習しノートにまとめる。		
8. 発達と老化について(教科書 p118 ~ 120)				講義内容を復習しノートにまとめる。		
9. 発声発語器官を触る、見る 1(教科書 p26)				講義内容を復習しノートにまとめる。		
10. 発声発語器官を触る、見る 2(教科書 p26)				講義内容を復習しノートにまとめる。		
11. 言語聴覚士による面接・相談(教科書 p94 ~ 95)				講義内容を復習しノートにまとめる。		
12. 言語聴覚士による検査・評価・訓練(教科書 p96 ~ 114)				講義内容を復習しノートにまとめる。		
13. チームアプローチ(教科書 p121 ~ 134)				講義内容を復習しノートにまとめる。		
14. 言語聴覚士の職業倫理・関連法規について(教科書 p195 ~ 224)				講義内容を復習しノートにまとめる。		
定期試験(期末レポート)						
15. 総括及びフィードバック(定期試験の解答・解説)				講義内容の復習		
成績評価方法	項目	<input type="checkbox"/> 課題・小テスト %	<input type="checkbox"/> レポート %	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 100%	<input type="checkbox"/> その他 %	
	基準等				講義中に配布する資料の内容から出題し理解度を評価する。	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	倉内紀子ほか	「言語聴覚障害総論 I」		建帛社	2012	
参考文献	毛束真知子	「絵でわかる言語障害」		学研	2013	
	藤田郁代ほか	「言語聴覚障害学概論」		医学書院	2010	
履修要件等	無し					
研究室	1号館5階 第16研究室		オフィスアワー	毎週水曜日 14:40~16:10		

科目No.	SDS02-1R		授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	言語聴覚障害概論Ⅱ		担当教員	木村 秀生		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	障害学総論		必修	1単位	後期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	言語聴覚士として臨床経験のある各教員が分担して言語聴覚障害各分野の概論を講義する。					
授業内容の要約	<ul style="list-style-type: none"> ・言語聴覚障害および摂食嚥下障害とそのリハビリテーションについての概要を学ぶ。 ・言語聴覚障害のある方や家族とどのように関わるか、関連職種とどのように連携するかなど、今後の臨床活動の基本的な考え方を学ぶ。 					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 言語聴覚障害および摂食嚥下障害とそのリハビリテーションについての概要を理解する。 2. 言語聴覚障害のある方の生活・心理・社会状況について理解する。 3. 臨床活動全般に必要な配慮や基礎的知識を習得する。 					
授業形態 授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・言語聴覚学専攻の教員が各自の専門分野を分担して講義する。 ・今後、上位学年での更に高度な専門各分野の学習を進めていく為に必要な基礎的知識、基本的視点を確実に習得されることを期待する。 					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上	
1. 小児聴覚障害1【廣瀬】(教科書 p349 ~ 356)				復習しノートへまとめる。		
2. 小児聴覚障害2【廣瀬】(教科書 p328~331)				復習しノートへまとめる。		
3. 成人聴覚障害1【馬屋原】(教科書 p357 ~ 362)				復習しノートへまとめる。		
4. 成人聴覚障害2、視覚聴覚二重障害【馬屋原】(教科書 p362 ~ 364)				復習しノートへまとめる。		
5. 言語発達障害1(知的障害)【高橋】(教科書 p291 ~ 306)				復習しノートへまとめる。		
6. 言語発達障害2(LD、AD/HD、広汎性発達障害)【高橋】(教科書 291p ~ 306)				復習しノートへまとめる。		
7. 言語発達障害3(脳性麻痺、重複障害)【木村】(教科書 p307 ~ 317)				復習しノートへまとめる。		
8. 拡大・代替コミュニケーション・特別支援教育【木村】(教科書 p 305, 316, 289)				復習しノートへまとめる。		
9. 小児構音障害【高橋】(教科書 p377 ~ 385)				復習しノートへまとめる。		
10. 音声障害・成人構音障害【和田】(教科書 p366 ~ 376)				復習しノートへまとめる。		
11. 嚥下障害1(成人)【和田】(教科書 p404 ~ 419)				復習しノートへまとめる。		
12. 嚥下障害2(小児)【木村】(教科書 p404 ~ 419)				復習しノートへまとめる。		
13. 高次脳機能障害【芦塚】(教科書 p275 ~ 290)				復習しノートへまとめる。		
14. 失語【芦塚】(教科書 p259 ~ 274)				復習しノートへまとめる。		
定期試験(期末レポート)						
15. 総括及びフィードバック(定期試験の解答・解説)				講義内容の復習		
成績評価方法	項目	<input type="checkbox"/> 課題・小テスト	%	<input type="checkbox"/> レポート	%	■定期試験 100% <input type="checkbox"/> その他%
	基準等					各分野担当教員が分担し各々の講義内容に沿った問題を出題する。
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	大森孝一 ほか	「言語聴覚士テキスト 第3版」		医歯薬出版	2018	
参考文献	毛束真知子	「絵でわかる言語障害 第2版」		学研メディカル秀潤社	2013	
履修要件等	言語聴覚障害概論Ⅰが履修済みであることが望ましい。					
研究室	1号館5階 第16研究室		オフィスアワー	毎週水曜日 9:30~10:30		

科目No.	SHD01-1R		授業形態	演習	開講年次	1年次
授業科目名	聴覚検査法（含演習）		担当教員	馬屋原 邦博		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	聴覚障害		必修	1単位	後期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	障害者福祉施設で言語聴覚士として勤務した経験から、各種聴覚検査法について授業を行う。					
授業内容の要約	聴覚障害の障害状況を把握するために臨床で使われている検査法を知り、実際に使えるように技術を身に付ける。					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 標準純音聴力検査が実施できる 2. 語音聴力検査が実施できる 3. その他の主な聴覚検査が実施できる 					
授業形態 授業の進め方	各検査についての講義および検査機器を扱いながら各種検査の実技を行う。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. 耳の構造と機能（言語聴覚士テキスト pp.74～78）			教科書及び配布資料で復習および次回の範囲の予習をすること			
2. オーディオメーターとその構造、保守、点検、および取扱い（教科書 pp.36～39）			教科書及び配布資料で復習および次回の範囲の予習をすること			
3. 標準純音聴力検査（気導聴力検査）（教科書 pp.44～49）			教科書及び配布資料で復習および次回の範囲の予習をすること			
4. 標準純音聴力検査（気導聴力検査）（教科書 pp.44～49）			教科書及び配布資料で復習および次回の範囲の予習をすること			
5. マスキングについて（教科書 pp.52～56）			教科書及び配布資料で復習および次回の範囲の予習をすること			
6. 標準純音聴力検査（骨導聴力検査）（教科書 pp.49～52）			教科書及び配布資料で復習および次回の範囲の予習をすること			
7. 標準純音聴力検査（まとめ）			教科書及び配布資料で復習および次回の範囲の予習をすること			
8. 自記オーディオメトリー（教科書 pp.57～62）			教科書及び配布資料で復習および次回の範囲の予習をすること			
9. 閾値上聴力検査（SISI）（教科書 pp.62～68）			教科書及び配布資料で復習および次回の範囲の予習をすること			
10. 語音聴力検査（語音了解閾値検査）（教科書 pp.69～80）			教科書及び配布資料で復習および次回の範囲の予習をすること			
11. 語音聴力検査（語音弁別検査）（教科書 pp.80～84）			教科書及び配布資料で復習および次回の範囲の予習をすること			
12. インピーダンス・オーディオメトリー（教科書 pp.85～95）			教科書及び配布資料で復習および次回の範囲の予習をすること			

13. 聴性誘発反応—他覚的聴力検査 (教科書 pp.110～121)		教科書及び配布資料で復習および次回の範囲の予習をすること						
14. 乳幼児聴力検査 (教科書 pp.129～139)		教科書及び配布資料で復習および次回の範囲の予習をすること						
定期試験								
15. 総括及びフィードバック (定期試験の解答・解説)								
成績評価方法	項目	<input type="checkbox"/> 課題・小テスト	%	<input type="checkbox"/> レポート	%	■定期試験 100%	<input type="checkbox"/> その他	%
	基準等					筆記試験で授業内容全般についての理解度を評価する。		
教科書	著者	タイトル			出版社	発行年		
	立木孝 (監修)	「聴覚検査の実際 改訂4版」			南山堂	2017		
参考文献	大森孝一ほか	「言語聴覚士テキスト 第3版」			医歯薬出版	2018		
履修要件等								
研究室	1号館5階 第19研究室			オフィスアワー	毎週水曜日 12:10～13:00			

科目No.	SCP01-1R		授業形態	演習	開講年次	1年次
授業科目名	臨床ゼミ I (ST)		担当教員	芦塚 あおい / 言語聴覚学専攻教員		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	臨床実習		必修	1単位	前期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	多くの病院等において実務経験のある言語聴覚士の授業により、臨床における基本的考え方と能力を身に付けさせる。					
授業内容の要約	「自己表出し、人間関係を作る力」を身につけるため、3施設の関連施設見学で体験した内容を踏まえて考察し、発表する。					
学修目標 到達目標	1. グループ活動において積極的にコミュニケーションをとることができる 2. 適切なプレゼンテーションをすることができる 3. 社会人として及び言語聴覚士としての基本的な振る舞いができる 4. 言語聴覚士の職域を説明することができる					
授業形態 授業の進め方	2年生以降の臨床実習に活かせるように、積極的にグループワークに参画し、学ぶことが望まれる。					
授業計画				授業時間外に必要な学修	30分以上	
1. 新入生研修を通じて、学生間のつながりをつくる ①						
2. 新入生研修を通じて、学生間のつながりをつくる ②						
3. オリエンテーション、自己紹介						
4. 集団活動(体育祭の準備等)を通じた学生間連携						
5. プレゼン課題の説明【手引き】、見学マナー						
6. 集団活動(体育祭)を通じた学生間連携・チームワーク①						
7. 集団活動(体育祭)を通じた学生間連携・チームワーク②						
8. 発表課題の説明【手引き】、見学マナー						
9. 関連施設見学の発表準備						
10. 発表の練習				予習：発表に向けた練習を行う		
11. 発表						
12. 言語聴覚士の職業像(ビデオ視聴及びレポート作成)						
13. 発達・コミュニケーションを支援する遊び(講義・演習)						
14. グループワーク：発達・コミュニケーションを支援する遊び(演習)						
定期試験(期末レポート)						
15. 総括及びフィードバック(定期試験の解答・解説)						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 50%	□レポート %	□定期試験 %	■その他 50%	
	基準等	授業内で課題・小テストを行い各演習の達成度を評価する。			関連施設見学の見学態度を評価する(10%)。 関連施設見学後のプレゼンを評価する(40%)。	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	特に指定しない					
参考文献		関連施設見学の手引き		大阪河崎リハビリテーション大学	2018	
	藤田郁代	「言語聴覚障害学概論」		医学書院	2010	
履修要件等						
研究室	3号館2階 第30研究室(芦塚)		オフィスアワー	各教員 オフィスアワー参照		

科目No.	SCP03-1R		授業形態	演習	開講年次	1年次
授業科目名	臨床実習指導 I (ST)		担当教員	芦塚 あおい / 言語聴覚学専攻教員		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	臨床実習		必修	1単位	後期(30h)
教員の実務経験と授業内容の関連	多くの病院等において実務経験のある言語聴覚士の授業により、臨床における基本的考え方と文章能力の必要性、能力を身に付けさせる。					
授業内容の要約	実習に向け、日本語力向上と臨床における観察の技術向上に努める。 STの役割について理解する。					
学修目標 到達目標	1. 基礎的な文章読解および文章表現(まとめ、考察)ができる 2. STの役割について理解し、臨床における観察結果を記録することができる					
授業形態 授業の進め方	半期ごとに1と2を行う。 2年生以降の臨床実習を意識して、積極的に取り組むことが望まれる。					
授業計画			授業時間外に必要な学修		30分以上	
1. オリエンテーション						
2. 文章読解および表現(まとめ・考察)①						
3. 文章読解および表現(まとめ・考察)① 添削後再考						
4. 文章読解および表現(まとめ・考察)②						
5. 文章読解および表現(まとめ・考察)② 添削後再考						
6. 文章読解および表現(まとめ・考察)③						
7. 文章読解および表現(まとめ・考察)③ 添削後再考						
8. まとめ						
9. 臨床におけるSTの役割について①(チーム医療の一員としての)						
10. 臨床におけるSTの役割について②(STと患者との関わり)						
11. 臨床におけるSTの役割について③(STと家族や周囲の人との)						
12. 臨床における観察と記録の実践①(ブローカ失語症例1)						
13. 臨床における観察と記録の実践②(ブローカ失語症例2)						
14. まとめ						
定期試験(期末レポート)						
15. 総括及びフィードバック(定期試験の解答・解説)						
成績評価方法	項目	■課題・小テスト 50%	■レポート 50%	□定期試験 %	□その他 %	
	基準等	授業内に、課題・小テストを行い評価する。	グループワークを行い、課題を評価する。		発表を行い評価する。	
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
		特に無し				
参考文献		特に無し				
履修要件等	この科目の単位を修得しないと、臨床実習概論の履修は認められない。					
研究室	3号館2階 第30研究室		オフィスアワー	毎週火曜日 12:10 ~ 13:00		

科目No.	SCP06-1R		授業形態	演習	開講年次	1年次
授業科目名	臨床実習概論（含演習）		担当教員	芦塚 あおい / 言語聴覚学専攻教員		
基本項目	専攻	科目区分		単位数		履修期間
	言語聴覚学	臨床実習		必修	1単位	後期（16h）
教員の実務経験と授業内容の関連	実務経験のある言語聴覚士の授業により、臨床における基本的考え方と能力を身に付けさせる。					
授業内容の要約	<ul style="list-style-type: none"> ・定型発達を知ることにより、発達に障害を持つ子どもへの支援の在り方を学ぶ ・小児の発達支援施設における役割、多職種間の連携のあり方を知る 					
学修目標 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 定型発達の子どもの成長過程が説明できる 2. 保育所、児童福祉施設の役割を説明することができる 3. 多職種の業務内容を理解し、連携のあり方を説明することができる 					
授業形態 授業の進め方	<p>参加型の見学実習</p> <p>これまで習ったことを理解した上で子どもや支援者を観察する。観察するときは、業務の支障にならないように、そして社会人としての態度で臨む。</p>					
授業計画				授業時間外に必要な学修	60分以上	
1. 子どもの発達心理学 1						
2. 子どもの発達心理学 2						
3. 子どもの発達を支援する福祉制度				予習：保育所の見学・参加準備		
4. 保育所の見学・参加（2歳児）				予習：保育所の見学・参加準備		
5. 保育所の見学・参加（3歳児）				予習：保育所の見学・参加準備		
6. 保育所の見学・参加（4歳児）				予習：施設の見学・参加準備		
7. 児童福祉施設の見学（療育場面）				復習：レポート作成		
定期試験（期末レポート）						
8. 総括及びフィードバック（定期試験の解答・解説）						
成績評価方法	項目	■小テスト 10%	■レポート 50%	□定期試験 %	■その他 40%	
	内容			参加態度		
教科書	著者	タイトル		出版社	発行年	
	特に指定しない					
参考文献	廣瀬肇監修	「言語聴覚士テキスト 第2版」		医歯薬出版	2011	
履修要件等	実習要件1)を満たしていること					
研究室	3号館2階 第30研究室		オフィスアワー	毎週火曜日 12:10 ~ 13:00		